

「高校生のための学びの基礎診断」への申請について

2021年6月28日

①事業者名	PeopleCert Qualifications Ltd. Commercial name known by LanguageCert. ピープルサート・クオリフィケーション・リミテッド（商標名：LanguageCert：ランゲージサー					
②測定ツール名	LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 1) (Listening, Reading, Writing) (Preliminary A1) LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 1) (Speaking) (Preliminary A1) LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 2) (Listening, Reading, Writing) (Access A2) LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 2) (Speaking) (Access A2) LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 3) (Listening, Reading, Writing) (Achiever B1) LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 3) (Speaking) (Achiever B1) LanguageCert Level 1 Certificate in ESOL International (Listening, Reading, Writing) (Communicator B2) LanguageCert Level 1 Certificate in ESOL International (Speaking) (Communicator B2) LanguageCert Level 2 Certificate in ESOL International (Listening, Reading, Writing) (Expert C1) LanguageCert Level 2 Certificate in ESOL International (Speaking) (Expert C1)					
③主な対象者	英語を母国語としない人すべて（英語スキルにより各レベルを資格として提供）					
④対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の 区分	基本タイプ	標準タイプ
			○			○
⑥申請する測定ツールの目的・概要	LanguageCert (ランゲージサート) IESOL資格は、口頭および書かれた英語を話し、書き、理解する能力の証明が必要な場合に、受験者に使用できる「認定資格」を提供します。英国または欧州の国に認められ、学校または職業的にも利用される英語能力の証明は、CEFRに完全に準拠させているので、評価はCEFRフレームワークに基づいて行われ、CEFRの'Can Do Statement'に定められた明確に定義されたレベルとスキルデクリプターに対する評価を受験者と教師と関係者に提供します。 ランゲージサート IESOL試験は生徒の皆さんが、文部科学省の新しい学習指導要領の「生きる力 学びの、その先へ」とあるように、主体的に自らテクノロジーと英語を活用して国際的な資格を取得するということを主眼としています。グローバル化、デジタル化かつ多様化したこれからの社会で活躍するためにアクティブラーニング、アダプティブラーニングといった教育支援を英語試験という側面から支援します。世界中の生徒と同じ基準で英語の能力が測定される試験を提供しています。その意味では、ランゲージサートはアクティブでそして主体的な生徒の多様性を支える試験を目指します。スピーキング試験の例をあげると、日本の高校生が英語やテクノロジーを駆使して、海外の対話者（評価者）との会話をインターネットのオンラインで実施することで、自分の力で英語能力の資格を取得するという経験ができます。そんな海外とのやり取りを一人でも多くの生徒の皆さんに経験していただくこと、そしてそれをきっかけに、世界に溢れているオンライン教育やオンラインサービスを英語で利用できるように願っています。 学校や組織に受験の負担をかけることなく、受験者はインターネット環境で遠隔地からカメラとマイクで試験監督された状態ですべての4技能の試験を完了することができます。また、スピーキング試験も当社専従の研修と検証を実施された面接試験員によりリアルタイムの対話を通じて規定項目に応じて能力が評価されます。グローバルなテクノロジー環境でコンピュータを駆使したオンラインでの受験を実施することで、英語を利用する経験を得られるだけでなく、テクノロジーを利用する経験も提供いたします。将来、世界で活躍する人材となるために、国内にいても世界的な体験が可能となる試験を提供いたします。 ランゲージサート IESOL資格は、国際的な環境で言語能力の評価の透過性をもち、近年急速に多くの国や機関によって認証・認識されてきています。ランゲージサート IESOL資格は、英語コミュニケーション能力の学習、外国語学習、テクノロジーへの好奇心、海外への好奇心と文化の発見などの学びにつながっていくと考えております。□					

⑦申請する測定ツールの特長・活用例等	ランゲージサート: ▷ テクノロジー: 英語で最先端のテクノロジーを活用する経験を提供 ▷ 英語での受験: オンライン受験の対話は英語で実施(希望によっては日本語でも可能) ▷ オンデマンド試験: 24時間年間を通じて受験者の都合にあわせて受験が可能 ▷ 受験場所の選択: インタネット環境とマイクとカメラがあるPC/Macがあればどこからでも受験が可能 ▷ 選択できるレベル: A1からC2までの選択が可能(無償のチェックレベルあり) ▷ 国際的な資格: スコアではなく資格として提供されるために、国際的に利用が可能 ▷ 本格的な英語システム: 受験者が利用する環境は世界で利用されている英語環境 ▷ アイテムバンキング: 膨大なアイテムとその計量心理学分析データによる信頼性 ▷ 言語試験の専門家: 著名な英語試験などの開発者たちのモデルを利用した妥当性の確保 ▷ 透明性の確保: 毎月数回の教師向け・生徒向けのウェビナーの開催とコンサルティング ▷ 出題フォーム: アイテムバンクと試験運用システムを利用した管理による妥当性の提供 ▷ スペイン・マドリッドの約650の公立/私立高校生10万人が数週間の期間で利用 ▷ 英国入国のVISA発行要件として同様の試験が活用 ▷ 欧州の高校大学での英語成績の証明								
⑧実施期間、年間実施回数	ランゲージサートIESOL資格の試験は、学校や受験者が試験の日時を選択することを可能にする「オンデマンド」で利用可能です。試験は、ランゲージサートが提供する試験運営サービスを使用して、紙ベース、コンピュータベースまたはオンライン・プロクタリング試験(OLP)として配信することができます。OLP試験の年間の実施回数としては、1時間に数回の時間枠を24時間ほぼ年間360日を通じて運用しております。 上記のOLP試験では運営ニーズに満たないと判断し、学校内で運営される試験の場合は、当面月間2回までの試験が実施可能です。								
⑨実施方式 (CBT/PBT)	試験は、PASSPORT®(PeopleCertアセスメントポータル)デジタルプラットフォームを通じて、配信、採点評価、認証、管理情報とレポート作成をWeb およびモバイルユーザーインターフェイスを通じて、以下のすべての配信を実施いたします。 ・ コンピュータベース、オンライン・プロクタリング試験 また、必要に応じて以下の配信方法も利用可能です。 ・ 紙ベースの試験(オンサイト試験) ・ コンピュータベース試験(オンサイト試験)口								
⑩試験時間(分)	国語	数学	英語						
			各レベルにより異なる。 RLW: 1時間40分から3時間10分 Speaking: 6分から17分						
⑪受検料	当社の試験代金は、オープン価格となっており、時期または開催方法などによって独自に算出されます。 比較のために、当社の推奨価格(当社ウェブサイトでの個人購入の場合): A1 Preliminary LR&W: 3,500円 A1 Preliminary Speaking: 3,500円から C1 Expert RL&W: 9,000円 C1 Expert Speaking: 9,000円までのレンジで価格設定がされます。								
⑫標準返却期間	<table><tr><td>オンライン・プロクタリング試験</td><td>3営業日</td></tr><tr><td>コンピュータベース試験</td><td>5営業日</td></tr><tr><td>紙試験</td><td>10営業日</td></tr></table>			オンライン・プロクタリング試験	3営業日	コンピュータベース試験	5営業日	紙試験	10営業日
オンライン・プロクタリング試験	3営業日								
コンピュータベース試験	5営業日								
紙試験	10営業日								
⑬URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://www.languagecert.org/en								

(様式2)

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名： ピープルサート・クオリフィケーション・リミテッド

測定ツール名：

LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 1) (Listening, Reading, Writing - Preliminary A1)

LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 1) (Speaking - Preliminary A1)

対象教科： 英語

測定内容の区分： 標準

I。出題に関すること

(1) 出題の基本方針

主な対象者

- ▶ 英語を母国語としない学習者
- ▶ グローバルな主体的な経験を求める学生
- ▶ 習熟度に応じた学習のための英語能力評価が必要な学生

測定しようとする資質・能力

- ▶ 国際的な英語圏での日常生活での「聞く」「読む」「書く」そして「話す」こと

出題範囲

- ▶ 英語圏での日常生活に必要とされる英語でのコミュニケーション

知識・技能を問う問題の出題方針

- ▶ 「知識・技能を問う問題の出題方針」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題の出題方針」に関して、Language Cert の英語テストは、CEFR の Can-do statement に準拠しています。Can-do で測るため「知識、技能がある」ということは「思考力、判断力、表現力」と密接に関連した総合力としての英語の力を測ると考えております。そのため、他の CEFR に準拠している英語テストと同じように、多くの場合「知識・技能を問う問題」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題」と分かれていません。しかし、初級者レベルの A1, A2, B1 のリーディングの一部の問題に「知識、技能を問う問題」があります。

- ▶ 「知識・技能を問う問題」

A1 Reading Part1, Part2

- ▶ 「思考力・判断力・表現力等を問う問題」
 - 選択式の「聞く」、「読む」問題
 - 記述式設問での「書く」問題
 - 会話形式での「話す」問題

聞くこと、読むこと、見ることを通じて、取得した情報や考えや論理的思考に基づいて、最適な答えを選択したり、書いたり、話したり、表現できるレベルの確認

学習指導要領との対応

- ▶ 「外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場

面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。」するとの観点から、全ての連絡や関係書類そしてシステム表示は英語で提供することで、実際の英語環境での判断やテクノロジーを活用する技能を身につける

- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語
- ▶ アクティブラーニングの推進のための英語能力評価設定の指標として利用が可能。

出題形式

- ・ 「聞く」： 選択式 (20分から30分)
- ・ 「読む」： 選択式 (「書く」と合わせて80分から160分)
- ・ 「書く」： 記述式 (「読む」と合わせて80分から160分)
- ・ 「話す」： 会話形式 (6分から15分)

難易度その他出題に関する事項の概略を記載すること

- ▶ モジュール毎に CEFR に準拠した A1 レベルから C1 レベルまでの難易度を調整して出題します。(Mastery C2 も提供を実施しているが今回は認可を申請しない)
- ▶ CEFR のレベルは、英国、ウェールズ、北アイルランドの Regulated Qualifications Framework のレベルにマッピングされています (Pathways to Proficiency: the alignment of language proficiency scales for assessing competence in English Language DFES / QCA, 2003 をご参照ください)。

(2) 構成等

① 出題形式

- ▶ 詳細は補足資料をご参照ください。
 - ・ 聞く： 選択式： 読むと合わせて 52 問
 - ・ 読む： 選択式： 聞くと合わせて 52 問
 - ・ 書く： 記述式： 2 問
 - ・ 話す： 会話形式： 8 から 10 問
- ▶ 利用システム
 - ・ 教室内試験
 - 聞く： 音声ファイル拡声器材、紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 読む： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 書く： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 話す： (当面オンライン試験のみ)
 - ・ オンライン・プロクタリング試験 (または顧客施設内 CBT 試験)
(オンライン・プロクタリング試験は遠隔地の試験監督員の監視のもとで受験をするオンライン試験)
 - 聞く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 読む： 当社専用オンライン試験サービス
 - 書く： 当社専用オンライン試験サービス

話す： 当社専用オンライン試験サービス（音声でのリアルタイム対話）

② 出題範囲

- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語
- ▶ 添付資料の参照ください。

（３）難易度設定の考え方・方法

- ▶ LanguageCert ESOL 英語資格は、CEFR に完全準拠するように開発運営されています。
- ▶ 試験フォームまたは試験問題等価性を担保するために様々な手法が利用されています。
 - ▶ 過去数十年にのぼる設問開発と管理によるテスト理論と各種数値情報と経験則を利用した試験仕様書並びに試験問題作成のガイドラインを利用しています。
 - ▶ 試験は、予備試験と実際の試験を通じたラッシュ(Rasch)モデルと項目応答理論の各種データを活用した LanguageCert 項目難易度特性スケールへとしてアイテムバンキングで管理されます。
 - ▶ サブジェクトベースのスピーキングとライティングの項目は、公平で、真意合理性と同一レベルの難易度を事前に試行して検証の上管理しています。
 - ▶ 有効性、信頼性、管理特性、等価性、バイアス管理などの原則が毀損される可能性のある場合、クオリフィケーション開発マネージャーは、担当役員にその旨の報告と指示を受けた上で、該当する管理基準や監督規制に基づき試験開発運営との調整をはかっています。
- ▶ CEFR の難易度に準拠するための方法として、数十年にわたる過去の膨大なデータでの検証、内外の専門家による検証、作成管理に関わる標準書面化、作成開発管理に関わる関係者への継続的な研修と習熟性を通じて CEFR に準拠した研究開発を行なっています。
- ▶ 添付資料を参照ください。

（４）基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- ▶ すべての試験環境を英語で提供することで、英語環境での初めての英語試験を実施します。
- ▶ 学生が自分でコンピュータを設定するなどの作業を通じて、学生は実際の英語で書かれた情報をもとに、受験までの準備と登録を実施する経験を取得するアクティブラーニングとなります。
- ▶ 学校内だけではなく、ESOL 資格と同等のアプローチは、当社の英国における入国 VISA の発行要件としての英語認定資格として、生涯活用できる英語能力のスケールです。
- ▶ 学校内だけの英語学習ではなく、日常的なコミュニケーション方法の認定資格であることを目指しています。
- ▶ A1 から C1 まで幅広い英語能力が測定できる試験を提供します。
- ▶ 最上級レベルである C2 レベルの試験も同様に提供できますので、より高いレベルを目指す機会にもなります。

（５）その他特長

- ▶ 基本的には、オンライン・プロクタリング試験を推奨しますが、紙試験と CBT のすべてにおいて、等価性が保てるように適宜管理されています。

- ▶ 全世界で行われている英語テストの結果を元に4技能におけるアダプティブテストを開発しております。巨大なデータに基づいた分析的なアプローチを用いておりますので、試験の質については常に維持されております。

II。結果提供に関すること

(1) 受験者個人への結果提供内容・方法

- ▶ 結果提供項目：スキル別の得点、Pass（試験の合格）/ High Pass（高得点合格）、Can-do-statement 内容
- ▶ CEFR に準拠のレベルに応じて、ハンドブックを通じて"Can-do-statement"を提供しますので、何が求められているのか、どのレベルであるのかは明確に記述されます。
- ▶ 国際的に利用されている同一基準の資格のために、特定の国にたいしての特別な様式の変更は現時点では行っていません。将来的に、日本での母集団が一定数を超過して各種分析と検証が可能な場合には、学習要項に対応する内容を考慮した内容にしていくことも考えられます。
- ▶ 受験者は、試験結果の確定通知を電子メールで連絡され、Statement of Results（SOR:試験結果）と Certificate（認定証）がリリースされます。添付サンプル参照の事。
- ▶ Certificate には 各レベルの合格不合格が表示されます。
- ▶ Statement of Results（SOR:試験結果）は、LanguageCert のウェブサイトから受験者はダウンロードすることができます。SOR には、スキル別のスコアと総合スコアが記載されます。
- ▶ Certificate（認定証）は、試験に合格して認定書を付与される受験者のみ発行されます。認定書には、取得した資格とグレードが表示されます。
- ▶ 受験者が望む場合には、受験結果の時系列の比較をウェブサイトで実施可能となります。
- ▶ 受験者が望む場合には、デジタルバッジまたは電子認定証などを通じて企業、各種学校、大学などに提出することが可能です。
- ▶ 受験者のスキル別のスコアの向上のために SOR を利用していただくことが考えられます。スキル別にスコアが出ますので、先生方が後でフィードバックされる時に役立ちます。
- ▶ 添付資料を参照ください。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

- ▶ MI(Management Information)とレポート・ソリューションを通じて、契約単位である学校、教育委員会などに可視化された情報を提供します。
- ▶ 多くの国の顧客が、標準のレポートまたはカスタマイズされたレポートを利用しています。日本においても同じアプローチがとられ、すべてのレポートは文科省または依頼者の要件に合わせて変更することができます。標準化されたレポートには、次の項目が含まれます。
 - ・ クラスとグレードレベルによる概要と分析結果(平均スコア、スコア分布などを含む)
 - ・ 時間の経過に伴うスコアの変化
 - ・ 教室のパフォーマンス、地域のパフォーマンス
 - ・ 成績のパフォーマンス
 - ・ 平均スコアなど
- ▶ 必要に応じて、学校、教育委員会などの職員が、特定のデータをフィルタリングして抽出し、

独自のアドホックレポートと分析を作成することができます。

- ▶ また、上記のレポートは、当社のシステムへアクセスすることなく定期的に特定電子メールで送付することも可能です。
- ▶ レポート作成プロセスをサポートするためのビジネス インテリジェンス (BI) チームがいます。これらは、何百万もの試験で実用的な洞察結果を生み出した経験を持つ専門のアナリストですので、共同してよりよいレポート作りを促進いたします。

(3) 試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法

- ▶ 別紙に記載されているように、当試験は CEFR の作成開発に関わった関係者により、完全に且つ慎重に準拠するために複数の作業を実施して検証しています。
- ▶ アイテムデータバンクには、当社独自のマッピングスケールをはじめとした各種の項目反応理論に基づいて計算された値によるテスト項目が収められています。設問作成、試験、回答分析、検証といった流れがテスト作成の専門家によって実施されています。
- ▶ コンピュータを用いた選択問題は設問に応じた自動的採点を実施します。人間による採点が必要なものは、審査員の厳密な研修と相当数の採点検証のための試験を実施します。
- ▶ 審査員は、基本的に当社従業員として継続的に審査基準との不一致度を是正するための研修、改善を行なっております。
- ▶ 試験とその評価検証として、定期的に、言語評価開発マネージャと資格開発マネージャの主導する様々な有識者、経験者、計量心理専門家、言語教育専門家による検証と議論をへて、開発チーム及び取締役会、諮問委員会などへ報告をされ事業計画に盛り込まれます。
- ▶ 過去のスコアとの比較は、個人情報として許諾されている範囲のデータを用いて受験者の過去スキル別スコア、母集団の統計指標数値などを比較した上、傾向や考えられるように表示されています。
- ▶ 詳細は添付のハンドブックをご参照ください。

III. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

- ▶ 目的への適合性を確保し、有効性に関する専門家のフィードバックと計量心理学またはその他の科学的な検証を考慮した評価を提供するように設計されています。
- ▶ 妥当性、信頼性、等価性、バイアス特性、管理特性を管理するため、以下の手法を用いています。
 - ◇ アイテムバンキングシステム、項目反応理論、LanguageCert アイテム難易度スケール (LID)、カリブレーション作業、マーキングとグレーディング手法、事前の予備試験を通じた項目データの収集と分析、アンカー項目等を利用した検証
- ▶ 試験問題のコピーや持ち帰りは固く禁止されており、露出係数などの複数の指標をつうじて設問のパラメータが正常に期待できる数値であることを確認しております。
- ▶ 資格試験評価開発チームとアドバイザリーボードは定期的に試験の結果をもとに、開発運営の修正などの議論を重ねています。この開発チームのメンバーが連携する日本市場の主たるのステークホルダーとの協議をへて展開された結果を、開発チームおよび取締役会のメンバーと諮問委員会との間で目標、課題、将来の事業計画へとつなげてゆきます。
- ▶ 言語試験の品質を維持するために弊社専門部門の専門家により毎年調査を行い、研究内容をウェブサイト等で公開しております。

- ▶ 試験の品質を担保する手法の詳細は、添付資料をご参照ください。

(2) 学校における実施方法

- ▶ LanguageCert のオンラインプロクタリング試験（OLP 試験）は、“オンデマンド”形式となっております。都合の良い時間に、・自宅または学校から受験が可能です。また、学校または施設での集団受験が可能となっています。
- ▶ 自宅から学生が受験する OLP 試験を使用したコンピュータベースのオンライン試験。訓練を受けた試験監督官と対話者（インターロキューター）は、LanguageCert によって提供されます。
- ▶ 当社の推奨の試験システムである OLP は、学校は当社から試験（バウチャー）コードを学生へ配布、または当社システム上から電子的にすべての学生にたいして試験（バウチャー）コードと受験登録へのアクセス情報が提供されます。学生は、指示に従って試験登録と受験を実施します。試験結果も学生へ電子的に配布され、学校担当者も当社 PASSPORT 試験運営システムより適宜ダウンロードすることが可能です。
- ▶ OLP 試験を推奨しますが、学校側の希望で他手段を利用する場合には、以下の方法も提供します。
 - ◇ 教師または学校側の試験監督による紙ベースの試験（教室試験）
 - ◇ 教師または学校側の試験監督によるコンピュータベースの試験（教室試験）
- ▶ OLP 試験以外は学校側での受験運営になりますが、基本的に同じプロセスを踏襲します。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

(3) 採点の方法と体制

- ▶ 100 年を超える英語言語の試験を作成している経験を持つ試験開発チームは、試験の開発と品質を確保しています。
- ▶ 当社のシステムは、データの保全、個人情報管理、知的財産情報管理、監査記録と管理のために、すべての処理を電子化した上で、修正員、採点員といった試験結果に影響を与える当事者の行動はすべてモニタリングされ、記録されています。
- ▶ マークシートの場合には、スキャン後に送付、または当社専用のスマートフォンのアプリケーションで写真撮影することで自動的に当社システムへ送付されとマーキングシステムが電子的にスコアリングを一定のアルゴリズムで実施します。不鮮明な回答などの場合には、修正員が確認の上で、監査記録と手順に従って回答への修正を加えます。
- ▶ コンピュータを利用している場合には自動的にコンピュータがスコアリングを実施します。回答に何らかの問題が特定されると、スコアリングタスクは専門チームへの審査と検証にまわり日数をようすることになります。
- ▶ 採点に関わる人員はすべてセキュアなアクセスが管理された部屋で実施しており、関係者以外はその部屋への立ち入りが限定されています。
- ▶ スピーキングとライティングに関わる採点には、当社スタッフとして約 50 名の社員を専従員として対応しており、それ以外に、200 名の補助人員がおります。現時点では、必要にして十分な対応能力を維持しております。
- ▶ 口頭試験などの採点員は日本国内での利用はなく、すべて海外在住の経験者により実施されます。そのため、スピーキング試験はすべて OLP 試験となります。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

(4) 情報管理体制

- ▶ LanguageCert とその 親会社 である PeopleCert は、業界で最も品質の高い国際標準認定プロバイダーの 2 社で、長年の認定/認定を保持しています。
 - ISO 9001：品質マネジメント -2000 年以降
 - ISO 14001：環境マネジメント - 2006 年以降
 - ISO 10002：顧客満足度と苦情処理 - 2006 年以降
 - ISO 27001：情報セキュリティ - 2008 年以降
 - ISO 23988：アセスメント提供における情報技術 - 2013 年以降
 - ISO 22301：ビジネス継続性 - 2015 年以降
 - サイバーエッセンシャル - 2018 年以降 (サイバーエッセンシャルは、情報セキュリティの良い慣行を採用するための英国政府の支援情報保証スキームです。これは、英国国家サイバーセキュリティセンターによって運営されています)。

- ▶ システムは、包括的なセキュリティポリシーとプロトコルのスイートで保護されている Microsoft Azure クラウドを使用します。マイクロソフトは、次の ISO 認定を保持しています(20000-1; 223001; 27001; 27071; 27018; 27701 と 9001) マイクロソフトは、サイバーエッセンシャルプラス認定も保有しています。認定および継続的な認定プロセスの一環として、マイクロソフト Azure は、CREST 認定プロバイダーである NCC グループによって毎年テストされています。システムは、(境界ファイアウォールとインターネットゲートウェイ、安全な構成、アクセス制御、マルウェア対策とパッチ管理)の 5 つのナショナル・サイバーセキュリティ・センターの制御キーによって管理されています。

IV。情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

- ▶ 試験開発工程の規則により障害のある受験者または特定の集団にたいして、公平性を担保するための手段が取られています。
- ▶ 合理的な調整と特別な考慮事項として、診断書などの記録のもとに、約 20 名のスタッフがこのポリシーの専門家として研修を受けて各種施策を実施します。
例： 試験時間の延長、筆記者支援、試験問題の文字やフォントの拡大表示、点字の資料の提供、色付きのテストペーパーまたはテストスクリーンの背景の提供
- ▶ また、これらの支援に際しての記録は、受験者情報と試験運営サービスである PASSPORT サービスに監査が可能なデータとして電子的記録されます。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

- ▶ 日本市場への参入にあたり、現時点ではすべての関連システムは英語表示のままですが、日本語での表示も少しずつ行なっております。ただ、新しい学習指導要項に記載されているように、探究的な学び、または、主体的な経験という観点において、英語を英語のまま理解するというスタンスも普及していければと考えております。
- ▶ 日常的に英語に触れて利用することが基本ですが、試験を受験するために必要な理解と準備のために情報をオンラインで提供しています。試験構成、模擬試験、推奨教科書、受験者または教師向けのウェビナーが提供されています。
- ▶ 情報は英語で提供されていますが、サポートとして Google Chrome などの自動変換を利用して日本語で利用することも可能です。
- ▶ 当社が保有する英語教材をはじめとして内容に関しての継続的なサポートをいたします。個別学校または教育委員会の要求事項に応じていきたいと考えております。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

- ▶ 個別学校または教育委員会の要求事項に応じます。

(4) 個人受験の可否

- ▶ 個人受験は可能としています。
- ▶ 学校に所属する学生として、または個人として学生は受験をすることができます。個人として受験する場合には、LanguageCert の国内パートナーまたはウェブサイトより申し込みと予約が可能です。利便性の観点から、個人受験の場合には OLP 試験を利用したインターネットでの受験となると想定されます。

(5) 問題内容の情報提供

- ▶ 既出問題の提供または公開は実施しておりません。
- ▶ LanguageCert のウェブサイトまたはピープルサートの日本語ウェブサイトから以下の情報提供を実施しています。
 - ▶ サンプル問題集と正答例、試験概要、クイックレベルチェックは当社ウェブサイトでは無償公開しており、学校・学生の利用が幅広く行われております。

(6) その他

- ▶ LanguageCert は、世界でも有数な認定資格団体である親会社ピープルサートと共に、グローバルなプロフェッショナルとして求められる言語能力、テクノロジー能力などを幅広く提供を可能にしています。英語だけの教育ではなく、アクティブラーニングの一環としてソリューションを提供できる可能性があります。例、テクノロジーの利用方法を英語で勉強する、数学の授業を英語で勉強するなど。
- ▶ 教育システムへの連携として、学生のプロフィールにデジタルバッジを記載、または XML 等のファイルでのシステム連携が可能となります。

(様式2)

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名： ピープルサート・クオリフィケーション・リミテッド
測定ツール名： LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 2) (Listening, Reading, Writing - Access A2)
 LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Entry 2) (Speaking - Access A2)

対象教科： 英語
測定内容の区分： 標準

I. 出題に関すること

(1) 出題の基本方針

主な対象者

- ▶ 英語を母国語としない学習者
- ▶ グローバルな主体的な経験を求める生徒
- ▶ 習熟度に応じた学習のための英語能力評価が必要な生徒

測定しようとする資質・能力

- ▶ 国際的な英語圏での日常生活での「聞く」「読む」「書く」そして「話す」こと

出題範囲

- ▶ 英語圏での日常生活に必要とされる英語でのコミュニケーション

知識・技能を問う問題の出題方針

- ▶ 「知識・技能を問う問題の出題方針」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題の出題方針」に関して, Language Cert の英語テストは, CEFR の Can-do statement に準拠しています. Can-do で測るため「知識, 技能がある」ということは「思考力, 判断力, 表現力」と密接に関連した総合力としての英語の力を測ると考えております. そのため, 他の CEFR に準拠している英語テストと同じように, 多くの場合「知識・技能を問う問題」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題」と分かれていません. しかし, 初級者レベルの A1, A2, B1 のリーディングの一部の問題に「知識, 技能を問う問題」があります.

- ▶ 「知識・技能を問う問題」

A2 Reading Part1, Part2

- ▶ 「思考力・判断力・表現力等を問う問題」

- 選択式の「聞く」、「読む」問題
- 記述式設問での「書く」問題
- 会話形式での「話す」問題

聞くこと、読むこと、見ることを通じて、取得した情報や考えや論理的思考に基づいて、最適な答えを選択したり、書いたり、話したり、表現できるレベルの確認

学習指導要領との対応

- ▶ 「外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深めるとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。」するとの観点から、全て

の連絡や関係書類そしてシステム表示は英語で提供することで、実際の英語環境での判断やテクノロジーを活用する技能を身につける

- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語
- ▶ アクティブラーニングの推進のための英語能力評価設定の指標として利用が可能。

出題形式

- ・ 「聞く」： 選択式 (20分から30分)
- ・ 「読む」： 選択式 (「書く」と合わせて80分から160分)
- ・ 「書く」： 記述式 (「読む」と合わせて80分から160分)
- ・ 「話す」： 会話形式 (6分から15分)

難易度その他出題に関する事項の概略を記載すること

- ▶ モジュール毎に CEFR に準拠した A1 レベルから C1 レベルまでの難易度を調整して出題します。
(Mastery C2 も提供を実施しているが今回は認可を申請しない)
- ▶ CEFR のレベルは、英国、ウェールズ、北アイルランドの Regulated Qualifications Framework のレベルにマッピングされています (Pathways to Proficiency: the alignment of language proficiency scales for assessing competence in English Language DFES / QCA, 2003 をご参照ください)。

(2) 構成等

① 出題形式

- ▶ 詳細は補足資料をご参照ください。
 - ・ 聞く： 選択式： 読むと合わせて 52 問
 - ・ 読む： 選択式： 聞くと合わせて 52 問
 - ・ 書く： 記述式： 2 問
 - ・ 話す： 会話形式： 8 から 10 問
- ▶ 利用システム
 - ・ 教室内試験
 - 聞く： 音声ファイル拡声器材、紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 読む： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 書く： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 話す： (当面オンライン試験のみ)
 - ・ オンライン・プロクタリング試験 (または顧客施設内 CBT 試験)
(オンライン・プロクタリング試験は遠隔地の試験監督員の監視のもとで受験をするオンライン試験)
 - 聞く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 読む： 当社専用オンライン試験サービス
 - 書く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 話す： 当社専用オンライン試験サービス (音声でのリアルタイム対話)

② 出題範囲

- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語
- ▶ 添付資料の参照ください。

(3) 難易度設定の考え方・方法

- ▶ LanguageCert ESOL 英語資格は、CEFR に完全準拠するように開発運営されています。
- ▶ 試験フォームまたは試験問題等価性を担保するために様々な手法が利用されています。
 - ▶ 過去数十年にのぼる設問開発と管理によるテスト理論と各種数値情報と経験則を利用した試験仕様書並びに試験問題作成のガイドラインを利用しています。
 - ▶ 試験は、予備試験と実際の試験を通じたラッシュ(Rasch)モデルと項目応答理論の各種データを活用した LanguageCert 項目難易度特性スケールへとしてアイテムバンキングで管理されます。
 - ▶ サブジェクトベースのスピーキングとライティングの項目は、公平で、真意合理性と同一レベルの難易度を事前に試行して検証の上管理しています。
 - ▶
 - ▶ 有効性、信頼性、管理特性、等価性、バイアス管理などの原則が毀損される可能性のある場合、クオリフィケーション開発マネージャーは、担当役員にその旨の報告と指示を受けた上で、該当する管理基準や監督規制に基づき試験開発運営との調整をはかっています。
- ▶ CEFR の難易度に準拠するための方法として、数十年にわたる過去の膨大なデータでの検証、内外の専門家による検証、作成管理に関わる標準書面化、作成開発管理に関わる関係者への継続的な研修と習熟性を通じて CEFR に準拠した研究開発を行なっています。
- ▶ 添付資料を参照ください。

(4) 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- ▶ すべての試験環境を英語で提供することで、英語環境での初めての英語試験を実施します。
- ▶ 生徒が自分でコンピュータを設定するなどの作業を通じて、生徒は実際の英語で書かれた情報をもとに、受験までの準備と登録を実施する経験を取得するアクティブラーニングとなります。
- ▶ 学校内だけではなく、ESOL 資格と同等のアプローチは、当社の英国における入国 VISA の発行要件としての英語認定資格として、生涯活用できる英語能力のスケールです。
- ▶ 学校内だけの英語学習ではなく、日常的なコミュニケーション方法の認定資格であることを目指しています。
- ▶ A1 から C1 まで幅広い英語能力が測定できる試験を提供します。
- ▶ 最上級レベルである C2 レベルの試験も同様に提供できますので、より高いレベルを目指す機会にもなります。

(5) その他特長

- ▶ 基本的には、オンライン・プロクタリング試験を推奨しますが、紙試験と CBT のすべてにおいて、等価性が保てるように適宜管理されています。
- ▶ 全世界で行われている英語テストの結果を元に 4 技能におけるアダプティブテストを開発しております。巨大なデータに基づいた分析的なアプローチを用いておりますので、試験の質については常

に維持されております。

II. 結果提供に関すること

(1) 受験者個人への結果提供内容・方法

- ▶ 結果提供項目：スキル別の得点、Pass（試験の合格） / High Pass（高得点合格）、Can-do-statement 内容
- ▶ CEFR に準拠のレベルに応じて、ハンドブックを通じて”Can-do-statement”を提供しますので、何が求められているのか、どのレベルであるのかは明確に記述されます。
- ▶ 国際的に利用されている同一基準の資格のために、特定の国にたいしての特別な様式の変更は現時点では行っていません。将来的に、日本での母集団が一定数を超過して各種分析と検証が可能な場合には、学習要項に対応する内容を考慮した内容にしていくことも考えられます。
- ▶ 受験者は、試験結果の確定通知を電子メールで連絡され、Statement of Results（SOR:試験結果）と Certificate（認定証）がリリースされます。添付サンプル参照の事。
- ▶ Certificate には 各レベルの合格不合格が表示されます。
- ▶ Statement of Results（SOR:試験結果）は、LanguageCert のウェブサイトから受験者はダウンロードすることができます。SOR には、スキル別のスコアと総合スコアが記載されます。
- ▶ Certificate（認定証）は、試験に合格して認定書を付与される受験者のみ発行されます。認定書には、取得した資格とグレードが表示されます。
- ▶ 受験者が望む場合には、受験結果の時系列の比較をウェブサイトで実施可能となります。
- ▶ 受験者が望む場合には、デジタルバッジまたは電子認定証などを通じて企業、各種学校、大学などに提出することが可能です。
- ▶ 受験者のスキル別のスコアの向上のために SOR を利用していただくことが考えられます。スキル別にスコアが出ますので、先生方が後でフィードバックされる時に役立ちます。
- ▶ 添付資料を参照ください。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

- ▶ MI(Management Information)とレポート・ソリューションを通じて、契約単位である学校、教育委員会などに可視化された情報を提供します。
- ▶ 多くの国の顧客が、標準のレポートまたはカスタマイズされたレポートを利用しています。日本においても同じアプローチがとられ、すべてのレポートは文科省または依頼者の要件に合わせて変更することができます。標準化されたレポートには、次の項目が含まれます。
 - ・ クラスとグレードレベルによる概要と分析結果(平均スコア、スコア分布などを含む)
 - ・ 時間の経過に伴うスコアの変化
 - ・ 教室のパフォーマンス、地域のパフォーマンス
 - ・ 成績のパフォーマンス
 - ・ 平均スコアなど
- ▶ 必要に応じて、学校、教育委員会などの職員が、特定のデータをフィルタリングして抽出し、独自のアドホックレポートと分析を作成することができます。
- ▶ また、上記のレポートは、当社のシステムへアクセスすることなく定期的に特定電子メールで送付することも可能です。

- ▶ レポート作成プロセスをサポートするためのビジネス インテリジェンス (BI) チームがいます。これらは、何百万もの試験で実用的な洞察結果を生み出した経験を持つ専門のアナリストですので、共同してよりよいレポート作りを促進いたします。

(3) 試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法

- ▶ 別紙に記載されているように、当試験は CEFR の作成開発に関わった関係者により、完全に且つ慎重に準拠するために複数の作業を実施して検証しています。
- ▶ アイテムデータバンクには、当社独自のマッピングスケールをはじめとした各種の項目反応理論に基づいて計算された値によるテスト項目が収められています。設問作成、試験、回答分析、検証といった流れがテスト作成の専門家によって実施されています。
- ▶ コンピュータを用いた選択問題は設問に応じた自動的採点を実施します。人間による採点が必要なものは、審査員の厳密な研修と相当数の採点検証のための試験を実施します。
- ▶ 審査員は、基本的に当社従業員として継続的に審査基準との不一致度を是正するための研修、改善を行なっております。
- ▶ 試験とその評価検証として、定期的に、言語評価開発マネージャと資格開発マネージャの主導する様々な有識者、経験者、計量心理専門家、言語教育専門家による検証と議論をへて、開発チーム及び取締役会、諮問委員会などへ報告をされ事業計画に盛り込まれます。
- ▶ 過去のスコアとの比較は、個人情報として許諾されている範囲のデータを用いて受験者の過去スキル別スコア、母集団の統計指標数値などを比較した上、傾向や考えられるように表示されています。
- ▶ 詳細は添付のハンドブックをご参照ください。

III. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

- ▶ 目的への適合性を確保し、有効性に関する専門家のフィードバックと計量心理学またはその他の科学的な検証を考慮した評価を提供するように設計されています。
- ▶ 妥当性、信頼性、等価性、バイアス特性、管理特性を管理するため、以下の手法を用いています。
- ✧ アイテムバンキングシステム、項目反応理論、LanguageCert アイテム難易度スケール (LID)、カリブレーション作業、マーキングとグレーディング手法、事前の予備試験を通じた項目データの収集と分析、アンカー項目等を利用した検証
- ▶ 試験問題のコピーや持ち帰りは固く禁止されており、露出係数などの複数の指標をつうじて設問のパラメータが正常に期待できる数値であることを確認しております。
- ▶ 資格試験評価開発チームとアドバイザリーボードは定期的に試験の結果をもとに、開発運営の修正などの議論を重ねています。この開発チームのメンバーが連携する日本市場の主たるのステークホルダーとの協議をへて展開された結果を、開発チームおよび取締役会のメンバーと諮問委員会との間で目標、課題、将来の事業計画へとつなげてゆきます。
- ▶ 言語試験の品質を維持するために弊社専門部門の専門家により毎年調査を行い、研究内容をウェブサイト等で公開しております。
- ▶ 試験の品質を担保する手法の詳細は、添付資料をご参照ください。

（２）学校における実施方法

- ▶ LanguageCert のオンラインプロクタリング試験（OLP 試験）は、“オンデマンド”形式となっております。都合の良い時間に、・自宅または学校から受験が可能です。また、学校または施設での集団受験が可能となっています。
- ▶ 自宅から生徒が受験する OLP 試験を使用したコンピュータベースのオンライン試験。訓練を受けた試験監督官と対話者（インターロキューター）は、LanguageCert によって提供されます。
- ▶ 当社の推奨の試験システムである OLP は、学校は当社から試験（バウチャー）コードを生徒へ配布、または当社システム上から電子的にすべての生徒にたいして試験（バウチャー）コードと受験登録へのアクセス情報が提供されます。生徒は、指示に従って試験登録と受験を実施します。試験結果も生徒へ電子的に配布され、学校担当者も当社 PASSPORT 試験運営システムより適宜ダウンロードすることが可能です。
- ▶ OLP 試験を推奨しますが、学校側の希望で他手段を利用する場合には、以下の方法も提供します。
- ◇ 教師または学校側の試験監督による紙ベースの試験（教室試験）
- ◇ 教師または学校側の試験監督によるコンピュータベースの試験（教室試験）
- ▶ OLP 試験以外は学校側での受験運営になりますが、基本的に同じプロセスを踏襲します。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

（３）採点の方法と体制

- ▶ 100 年を超える英語言語の試験を作成している経験を持つ試験開発チームは、試験の開発と品質を確保しています。
- ▶ 当社のシステムは、データの保全、個人情報管理、知的財産情報管理、監査記録と管理のために、すべての処理を電子化した上で、修正員、採点員といった試験結果に影響を与える当事者の行動はすべてモニタリングされ、記録されています。
- ▶ マークシートの場合には、スキャン後に送付、または当社専用のスマートフォンのアプリケーションで写真撮影することで自動的に当社システムへ送付されとマーキングシステムが電子的にスコアリングを一定のアルゴリズムで実施します。不鮮明な回答などの場合には、修正員が確認の上で、監査記録と手順に従って回答への修正を加えます。
- ▶ コンピュータを利用している場合には自動的にコンピュータがスコアリングを実施します。回答に何らかの問題が特定されると、スコアリングタスクは専門チームへの審査と検証にまわり日数をようすることになります。
- ▶ 採点に関わる人員はすべてセキュアなアクセスが管理された部屋で実施しており、関係者以外はその部屋への立ち入りが限定されています。
- ▶ スピーキングとライティングに関わる採点には、当社スタッフとして約 50 名の社員を専従員として対応しており、それ以外に、200 名の補助人員がおります。現時点では、必要にして十分な対応能力を維持しております。
- ▶ 口頭試験などの採点員は日本国内での利用はなく、すべて海外在住の経験者により実施されます。そのため、スピーキング試験はすべて OLP 試験となります。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

(4) 情報管理体制

- ▶ LanguageCert とその 親会社 である PeopleCert は、業界で最も品質の高い国際標準認定プロバイダーの 2 社で、長年の認定/認定を保持しています。
 - ISO 9001：品質マネジメント -2000 年以降
 - ISO 14001：環境マネジメント - 2006 年以降
 - ISO 10002：顧客満足度と苦情処理 - 2006 年以降
 - ISO 27001：情報セキュリティ - 2008 年以降
 - ISO 23988：アセスメント提供における情報技術 - 2013 年以降
 - ISO 22301：ビジネス継続性 - 2015 年以降
 - サイバーエッセンシャル - 2018 年以降 (サイバーエッセンシャルは、情報セキュリティの良い慣行を採用するための英国政府の支援情報保証スキームです.これは、英国国家サイバーセキュリティセンターによって運営されています)。

- ▶ システムは、包括的なセキュリティポリシーとプロトコルのスイートで保護されている Microsoft Azure クラウドを使用します。マイクロソフトは、次の ISO 認定を保持しています (20000-1; 223001; 27001; 27071; 27018; 27701 と 9001) マイクロソフトは、サイバーエッセンシャルプラス認定も保有しています。認定および継続的な認定プロセスの一環として、マイクロソフト Azure は、CREST 認定プロバイダーである NCC グループによって毎年テストされています。システムは、(境界ファイアウォールとインターネットゲートウェイ、安全な構成、アクセス制御、マルウェア対策とパッチ管理)の 5 つのナショナル・サイバーセキュリティ・センターの制御キーによって管理されています。

IV. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

- ▶ 試験開発工程の規則により障害のある受験者または特定の集団にたいして、公平性を担保するための手段が取られています。
- ▶ 合理的な調整と特別な考慮事項として、診断書などの記録のもとに、約 20 名のスタッフがこのポリシーの専門家として研修を受けて各種施策を実施します。
例： 試験時間の延長、筆記者支援、試験問題の文字やフォントの拡大表示、点字の資料の提供、色付きのテストペーパーまたはテストスクリーンの背景の提供
- ▶ また、これらの支援に際しての記録は、受験者情報と試験運営サービスである PASSPORT サービスに監査が可能なデータとして電子的記録されます。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

- ▶ 日本市場への参入にあたり、現時点ではすべての関連システムは英語表示のままですが、日本語での表示も少しずつ行なっております。ただ、新しい学習指導要項に記載されているように、探究的な学び、または、主体的な経験という観点において、英語を英語のまま理解するというスタンスも普及していければと考えております。
- ▶ 日常的に英語に触れて利用することが基本ですが、試験を受験するために必要な理解と準備のために情報をオンラインで提供しています。試験構成、模擬試験、推奨教科書、受験者または教師向けのウェビナーが提供されています。
- ▶ 情報は英語で提供されていますが、サポートとして Google Chrome などの自動変換を利用して日本語で利用することも可能です。
- ▶ 当社が保有する英語教材をはじめとして内容に関しての継続的なサポートをいたします。個別学校または教育委員会の要求事項に応じていきたいと考えております。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

- ▶ 個別学校または教育委員会の要求事項に応じます。

(4) 個人受験の可否

- ▶ 個人受験は可能としています。
- ▶ 学校に所属する生徒として、または個人として生徒は受験をすることができます。個人として受験する場合には、LanguageCert の国内パートナーまたはウェブサイトより申し込みと予約が可能です。利便性の観点から、個人受験の場合には OLP 試験を利用したインターネットでの受験となると想定されます。

(5) 問題内容の情報提供

- ▶ 既出問題の提供または公開は実施しておりません。
- ▶ LanguageCert のウェブサイトまたはピープルサートの日本語ウェブサイトから以下の情報提供を実施しています。
 - ▶ サンプル問題集と正答例、試験概要、クイックレベルチェックは当社ウェブサイトでは無償公開しており、学校・生徒の利用が幅広く行われております。

(6) その他

- ▶ LanguageCert は、世界でも有数な認定資格団体である親会社ピープルサートと共に、グローバルなプロフェッショナルとして求められる言語能力、テクノロジー能力などを幅広く提供を可能にしています。英語だけの教育ではなく、アクティブラーニングの一環としてソリューションを提供できる可能性があります。例、テクノロジーの利用方法を英語で勉強する、数学の授業を英語で勉強するなど。
- ▶ 教育システムへの連携として、生徒のプロファイルにデジタルバッジを記載、または XML 等のファイルでのシステム連携が可能となります。

(様式2)

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名：	ピープルサート・クオリフィケーション・リミテッド
測定ツール名：	LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (UK レベル Entry 3) (Listening, Reading, Writing - Achiever B1) LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (UK レベル Entry 3) (Speaking - Achiever B1)
対象教科：	英語
測定内容の区分：	標準

1. 出題に関すること

(1) 出題の基本方針

主な対象者

- ▶ 英語を母国語としない学習者
- ▶ グローバルな主体的な経験を求める生徒
- ▶ 習熟度に応じた学習のための英語能力評価が必要な生徒

測定しようとする資質・能力

- ▶ 国際的な英語圏での日常生活での「聞く」「読む」「書く」そして「話す」こと

出題範圍

- ▶ 英語圏での日常生活に必要なとされる英語でのコミュニケーション

知識・技能を問う問題の出題方針

- ▶ 「知識・技能を問う問題の出題方針」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題の出題方針」に関して、Language Cert の英語テストは、CEFR の Can-do statement に準拠しています。Can-do で測るため「知識、技能がある」ということは「思考力、判断力、表現力」と密接に関連した総合力としての英語の力を測ると考えております。そのため、他の CEFR に準拠している英語テストと同じように、多くの場合「知識・技能を問う問題」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題」と分かれています。しかし、初級者レベルの A1, A2, B1 のリーディングの一部の問題に「知識、技能を問う問題」があります。

- ▶ 「知識・技能を問う問題」

B1 Reading Part1

- ▶ 「思考力・判断力・表現力等を問う問題」
 - 選択式の「聞く」、「読む」問題
 - 記述式設問での「書く」問題
 - 会話形式での「話す」問題

聞くこと、読むこと、見ることを通じて、取得した情報や考えや論理的思考に基づいて、最適な答えを選択したり、書いたり、話したり、表現できるレベルの確認

学習指導要領との対応

- ▶ 「外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。」すると、観点から、全ての連絡や関係書類そしてシステム表示は英語で提供することで、実際の英語環境での判断やテクノ

ロジャーを活用する技能を身につける

- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語
- ▶ アダプティブラーニングの推進のための英語能力評価設定の指標として利用が可能。

出題形式

- ・ 「聞く」： 選択式 (20 分から 30 分)
- ・ 「読む」： 選択式 (「書く」と合わせて 80 分から 160 分)
- ・ 「書く」： 記述式 (「読む」と合わせて 80 分から 160 分)
- ・ 「話す」： 会話形式 (6 分から 15 分)

難易度その他出題に関する事項の概略を記載すること

- ▶ モジュール毎に CEFR に準拠した A1 レベルから C1 レベルまでの難易度を調整して出題します。
(Mastery C2 も提供を実施しているが今回は認可を申請しない)
- ▶ CEFR のレベルは、英国、ウェールズ、北アイルランドの Regulated Qualifications Framework のレベルにマッピングされています (Pathways to Proficiency: the alignment of language proficiency scales for assessing competence in English Language DFES / QCA, 2003 をご参照ください)。

(2) 構成等

① 出題形式

- ▶ 詳細は補足資料をご参照ください。
 - ・ 聞く： 選択式： 読むと合わせて 52 問
 - ・ 読む： 選択式： 聞くと合わせて 52 問
 - ・ 書く： 記述式： 2 問
 - ・ 話す： 会話形式： 8 から 10 問
- ▶ 利用システム
 - ・ 教室内試験
 - 聞く： 音声ファイル拡声器材、紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 読む： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 書く： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 話す： (当面オンライン試験のみ)
 - ・ オンライン・プロクタリング試験 (または顧客施設内 CBT 試験)
(オンライン・プロクタリング試験は遠隔地の試験監督員の監視のもとで受験をするオンライン試験)
 - 聞く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 読む： 当社専用オンライン試験サービス
 - 書く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 話す： 当社専用オンライン試験サービス (音声でのリアルタイム対話)

② 出題範囲

- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語
- ▶ 添付資料を参照ください。

(3) 難易度設定の考え方・方法

- ▶ LanguageCert ESOL 英語資格は、CEFR に完全準拠するように開発運営されています。
- ▶ 試験フォームまたは試験問題等価性を担保するために様々な手法が利用されています。
 - ▶ 過去数十年にのぼる設問開発と管理によるテスト理論と各種数値情報と経験則を利用した試験仕様書並びに試験問題作成のガイドラインを利用しています。
 - ▶ 試験は、予備試験と実際の試験を通じたラッシュ(Rasch)モデルと項目応答理論の各種データを活用した LanguageCert 項目難易度特性スケールへとしてアイテムバンキングで管理されます。
 - ▶ サブジェクトベースのスピーキングとライティングの項目は、公平で、真意合理性と同一レベルの難易度を事前に試行して検証の上管理しています。
 - ▶ 有効性、信頼性、管理特性、等価性、バイアス管理などの原則が毀損される可能性のある場合、クオリフィケーション開発マネージャーは、担当役員にその旨の報告と指示を受けた上で、該当する管理基準や監督規制に基づき試験開発運営との調整をはかっています。
- ▶ CEFR の難易度に準拠するための方法として、数十年にわたる過去の膨大なデータでの検証、内外の専門家による検証、作成管理に関わる標準書面化、作成開発管理に関わる関係者への継続的な研修と習熟性を通じて CEFR に準拠した研究開発を行なっています。
- ▶ 添付資料を参照ください。

(4) 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- ▶ すべての試験環境を英語で提供することで、英語環境での初めての英語試験を実施します。
- ▶ 生徒が自分でコンピュータを設定するなどの作業を通じて、生徒は実際の英語で書かれた情報をもとに、受験までの準備と登録を実施する経験を取得するアクティブラーニングとなります。
- ▶ 学校内だけではなく、ESOL 資格と同等のアプローチは、当社の英国における入国 VISA の発行要件としての英語認定資格として、生涯活用できる英語能力のスケールです。
- ▶ 学校内だけの英語学習ではなく、日常的なコミュニケーション方法の認定資格であることを目指しています。
- ▶ A1 から C1 まで幅広い英語能力が測定できる試験を提供します。
- ▶ 最上級レベルである C2 レベルの試験も同様に提供できますので、より高いレベルを目指す機会にもなります。

5) その他特長

- ▶ 基本的には、オンライン・プロクタリング試験を推奨しますが、紙試験と CBT のすべてにおいて、等価性が保てるように適宜管理されています。
- ▶ 全世界で行われている英語テストの結果を元に 4 技能におけるアダプティブテストを開発しております。巨大なデータに基づいた分析的なアプローチを用いておりますので、試験の質については常

に維持されております。

II. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

- ▶ 結果提供項目：スキル別の得点、Pass（試験の合格） / High Pass（高得点合格）、Can-do-statement 内容
- ▶ CEFR に準拠のレベルに応じて、ハンドブックを通じて”Can-do-statement”を提供しますので、何が求められているのか、どのレベルであるのかは明確に記述されます。
- ▶ 国際的に利用されている同一基準の資格のために、特定の国にたいしての特別な様式の変更は現時点では行っていません。将来的に、日本での母集団が一定数を超過して各種分析と検証が可能な場合には、学習要項に対応する内容を考慮した内容にしていくことも考えられます。
- ▶ 受験者は、試験結果の確定通知を電子メールで連絡され、Statement of Results（SOR:試験結果）と Certificate（認定証）がリリースされます。添付サンプル参照の事。
- ▶ Certificate には 各レベルの合格不合格が表示されます。
- ▶ Statement of Results（SOR:試験結果）は、LanguageCert のウェブサイトから受験者はダウンロードすることができます。SOR には、スキル別のスコアと総合スコアが記載されます。
- ▶ Certificate（認定証）は、試験に合格して認定書を付与される受験者のみ発行されます。認定書には、取得した資格とグレードが表示されます。
- ▶ 受験者が望む場合には、受験結果の時系列の比較をウェブサイトで実施可能となります。
- ▶ 受験者が望む場合には、デジタルバッジまたは電子認定証などを通じて企業、各種学校、大学などに提出することが可能です。
- ▶ 受験者のスキル別のスコアの向上のために SOR を利用していただくことが考えられます。スキル別にスコアが出ますので、先生方が後でフィードバックされる時に役立ちます。
- ▶ 添付資料を参照ください。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

- ▶ MI(Management Information)とレポート・ソリューションを通じて、契約単位である学校、教育委員会などに可視化された情報を提供します。
- ▶ 多くの国の顧客が、標準のレポートまたはカスタマイズされたレポートを利用しています。日本においても同じアプローチがとられ、すべてのレポートは文科省または依頼者の要件に合わせて変更することができます。標準化されたレポートには、次の項目が含まれます。
 - クラスとグレードレベルによる概要と分析結果(平均スコア、スコア分布などを含む)
 - 時間の経過に伴うスコアの変化
 - 教室のパフォーマンス、地域のパフォーマンス
 - 成績のパフォーマンス
 - 平均スコアなど
- ▶ 必要に応じて、学校、教育委員会などの職員が、特定のデータをフィルタリングして抽出し、独自のアドホックレポートと分析を作成することができます。
- ▶ また、上記のレポートは、当社のシステムへアクセスすることなく定期的に特定電子メールで送付することも可能です。

- ▶ レポート作成プロセスをサポートするためのビジネス インテリジェンス (BI) チームがいます。これらは、何百万もの試験で実用的な洞察結果を生み出した経験を持つ専門のアナリストですので、共同してよりよいレポート作りを促進いたします。

(3) 試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法

- ▶ 別紙に記載されているように、当試験は CEFR の作成開発に関わった関係者により、完全に且つ慎重に準拠するために複数の作業を実施して検証しています。
- ▶ アイテムデータバンクには、当社独自のマッピングスケールをはじめとした各種の項目反応理論に基づいて計算された値によるテスト項目が収められています。設問作成、試験、回答分析、検証といった流れがテスト作成の専門家によって実施されています。
- ▶ コンピュータを用いた選択問題は設問に応じた自動的採点を実施します。人間による採点が必要なものは、審査員の厳密な研修と相当数の採点検証のための試験を実施します。
- ▶ 審査員は、基本的に当社従業員として継続的に審査基準との不一致度を是正するための研修、改善を行なっております。
- ▶ 試験とその評価検証として、定期的に、言語評価開発マネージャと資格開発マネージャの主導する様々な有識者、経験者、計量心理専門家、言語教育専門家による検証と議論をへて、開発チーム及び取締役会、諮問委員会などへ報告をされ事業計画に盛り込まれます。
- ▶ 過去のスコアとの比較は、個人情報として許諾されている範囲のデータを用いて受験者の過去スキル別スコア、母集団の統計指標数値などを比較した上、傾向や考えられるように表示されています。
- ▶ 詳細は添付のハンドブックをご参照ください。

III. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

- ▶ 目的への適合性を確保し、有効性に関する専門家のフィードバックと計量心理学またはその他の科学的な検証を考慮した評価を提供するように設計されています。
- ▶ 妥当性、信頼性、等価性、バイアス特性、管理特性を管理するため、以下の手法を用いています。
 - ◇ アイテムバンキングシステム、項目反応理論、LanguageCert アイテム難易度スケール (LID)、カリブレーション作業、マーキングとグレーディング手法、事前の予備試験を通じた項目データの収集と分析、アンカー項目等を利用した検証
- ▶ 試験問題のコピーや持ち帰りは固く禁止されており、露出係数などの複数の指標をつうじて設問のパラメータが正常に期待できる数値であることを確認しております。
- ▶ 資格試験評価開発チームとアドバイザリーボードは定期的に試験の結果をもとに、開発運営の修正などの議論を重ねています。この開発チームのメンバーが連携する日本市場の主たるのステークホルダーとの協議をへて展開された結果を、開発チームおよび取締役会のメンバーと諮問委員会との間で目標、課題、将来の事業計画へとつなげてゆきます。
- ▶ 言語試験の品質を維持するために弊社専門部門の専門家により毎年調査を行い、研究内容をウェブサイト等で公開しております。
- ▶ 試験の品質を担保する手法の詳細は、添付資料をご参照ください。

(2) 学校における実施方法

- ▶ LanguageCert のオンラインプロクタリング試験（OLP 試験）は、“オンデマンド”形式となっております。都合の良い時間に、・自宅または学校から受験が可能です。また、学校または施設での集団受験が可能となっております。
- ▶ 自宅から生徒が受験する OLP 試験を使用したコンピュータベースのオンライン試験。訓練を受けた試験監督官と対話者（インターロキューター）は、LanguageCert によって提供されます。
- ▶ 当社の推奨の試験システムである OLP は、学校は当社から試験（バウチャー）コードを生徒へ配布、または当社システム上から電子的にすべての生徒にたいして試験（バウチャー）コードと受験登録へのアクセス情報が提供されます。生徒は、指示に従って試験登録と受験を実施します。試験結果も生徒へ電子的に配布され、学校担当者も当社 PASSPORT 試験運営システムより適宜ダウンロードすることが可能です。
- ▶ OLP 試験を推奨しますが、学校側の希望で他手段を利用する場合には、以下の方法も提供します。
 - ◇ 教師または学校側の試験監督による紙ベースの試験（教室試験）
 - ◇ 教師または学校側の試験監督によるコンピュータベースの試験（教室試験）
- ▶ OLP 試験以外は学校側での受験運営になりますが、基本的に同じプロセスを踏襲します。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

(3) 採点の方法と体制

- ▶ 100 年を超える英語言語の試験を作成している経験を持つ試験開発チームは、試験の開発と品質を確保しています。
- ▶ 当社のシステムは、データの保全、個人情報管理、知的財産情報管理、監査記録と管理のために、すべての処理を電子化した上で、修正員、採点員といった試験結果に影響を与える当事者の行動はすべてモニタリングされ、記録されています。
- ▶ マークシートの場合には、スキャン後に送付、または当社専用のスマートフォンのアプリケーションで写真撮影することで自動的に当社システムへ送付されとマーキングシステムが電子的にスコアリングを一定のアルゴリズムで実施します。不鮮明な回答などの場合には、修正員が確認の上で、監査記録と手順に従って回答への修正を加えます。
- ▶ コンピュータを利用している場合には自動的にコンピュータがスコアリングを実施します。回答に何らかの問題が特定されると、スコアリングタスクは専門チームへの審査と検証にまわり日数をようすることになります。
- ▶ 採点に関わる人員はすべてセキュアなアクセスが管理された部屋で実施しており、関係者以外はその部屋への立ち入りが限定されています。
- ▶ スピーキングとライティングに関わる採点には、当社スタッフとして約 50 名の社員を専従員として対応しており、それ以外に、200 名の補助人員がおります。現時点では、必要にして十分な対応能力を維持しております。
- ▶ 口頭試験などの採点員は日本国内での利用はなく、すべて海外在住の経験者により実施されます。そのため、スピーキング試験はすべて OLP 試験となります。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

(4) 情報管理体制

- ▶ LanguageCert とその 親会社 である PeopleCert は、業界で最も品質の高い国際標準認定プロバ

イダーの2社で、長年の認定/認定を保持しています。

- ISO 9001：品質マネジメント -2000 年以降
- ISO 14001：環境マネジメント - 2006 年以降
- ISO 10002：顧客満足度と苦情処理 - 2006 年以降
- ISO 27001：情報セキュリティ - 2008 年以降
- ISO 23988：アセスメント提供における情報技術 - 2013 年以降
- ISO 22301：ビジネス継続性 - 2015 年以降
- サイバーエッセンシャル - 2018 年以降（サイバーエッセンシャルは、情報セキュリティの良い慣行を採用するための英国政府の支援情報保証スキームです。これは、英国国家サイバーセキュリティセンターによって運営されています）。

- ▶ システムは、包括的なセキュリティポリシーとプロトコルのスイートで保護されている Microsoft Azure クラウドを使用します。マイクロソフトは、次の ISO 認定を保持しています(20000-1; 223001; 27001; 27071; 27018; 27701 と 9001) マイクロソフトは、サイバーエッセンシャルプラス認定も保有しています。認定および継続的な認定プロセスの一環として、マイクロソフト Azure は、CREST 認定プロバイダーである NCC グループによって毎年テストされています。システムは、(境界ファイアウォールとインターネットゲートウェイ、安全な構成、アクセス制御、マルウェア対策とパッチ管理)の5つのナショナル・サイバーセキュリティ・センターの制御キーによって管理されています。

IV. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

- ▶ 試験開発工程の規則により障害のある受験者または特定の集団にたいして、公平性を担保するための手段が取られています。
- ▶ 合理的な調整と特別な考慮事項として、診断書などの記録のもとに、約 20 名のスタッフがこのポリシーの専門家として研修を受けて各種施策を実施します。
例： 試験時間の延長、筆記者支援、試験問題の文字やフォントの拡大表示、点字の資料の提供、色付きのテストペーパーまたはテストスクリーンの背景の提供
- ▶ また、これらの支援に際しての記録は、受験者情報と試験運営サービスである PASSPORT サービスに監査が可能なデータとして電子的記録されます。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

- ▶ 日本市場への参入にあたり、現時点ではすべての関連システムは英語表示のままですが、日本語での表示も少しずつ行なっております。ただ、新しい学習指導要項に記載されているように、探究的な学び、または、主体的な経験という観点において、英語を英語のまま理解するというスタンスも普及していければと考えております。
- ▶ 日常的に英語に触れて利用することが基本ですが、試験を受験するために必要な理解と準備のために情報をオンラインで提供しています。試験構成、模擬試験、推奨教科書、受験者または教師向けのウェビナーが提供されています。
- ▶ 情報は英語で提供されていますが、サポートとして Google Chrome などの自動変換を利用して日本語で利用することも可能です。
- ▶ 当社が保有する英語教材をはじめとして内容に関しての継続的なサポートをいたします。個別学校または教育委員会の要求事項に応じていきたいと考えております。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

- ▶ 個別学校または教育委員会の要求事項に応じます。

(4) 個人受験の可否

- ▶ 個人受験は可能としています。
- ▶ 学校に所属する生徒として、または個人として生徒は受験をすることができます。個人として受験する場合には、LanguageCert の国内パートナーまたはウェブサイトより申し込みと予約が可能です。利便性の観点から、個人受験の場合には OLP 試験を利用したインターネットでの受験となると想定されます。

(5) 問題内容の情報提供

- ▶ 既出問題の提供または公開は実施しておりません。
- ▶ LanguageCert のウェブサイトまたはピープルサートの日本語ウェブサイトから以下の情報提供を実施しています。
 - ▶ サンプル問題集と正答例、試験概要、クイックレベルチェックは当社ウェブサイトでは無償公開しており、学校・生徒の利用が幅広く行われております。

(6) その他

- ▶ LanguageCert は、世界でも有数な認定資格団体である親会社ピープルサートと共に、グローバルなプロフェッショナルとして求められる言語能力、テクノロジー能力などを幅広く提供を可能にしています。英語だけの教育ではなく、アクティブラーニングの一環としてソリューションを提供できる可能性があります。例、テクノロジーの利用方法を英語で勉強する、数学の授業を英語で勉強するなど。
- ▶ 教育システムへの連携として、生徒のプロファイルにデジタルバッジを記載、または XML 等のファイルでのシステム連携が可能となります。

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名： ピープルサート・クオリフィケーション・リミテッド
測定ツール名： LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Level 1) (Listening, Reading, Writing - Communicator B2)
LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Level 1) (Speaking - Communicator B2)
対象教科： 英語
測定内容の区分： 標準

I. 出題に関すること

(1) 出題の基本方針

主な対象者

- ▶ 英語を母国語としない学習者
- ▶ グローバルな主体的な経験を求める生徒
- ▶ 習熟度に応じた学習のための英語能力評価が必要な生徒

測定しようとする資質・能力

- ▶ 国際的な英語圏での日常生活での「聞く」「読む」「書く」そして「話す」こと

出題範囲

- ▶ 英語圏での日常生活に必要とされる英語でのコミュニケーション

知識・技能を問う問題の出題方針

- ▶ 「知識・技能を問う問題の出題方針」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題の出題方針」に関して、Language Cert の英語テストは、CEFR の Can-do statement に準拠しています。Can-do で測るため「知識、技能がある」ということは「思考力、判断力、表現力」と密接に関連した総合力としての英語の力を測ると考えております。そのため、他の CEFR に準拠している英語テストと同じように、多くの場合「知識・技能を問う問題」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題」と分かれていません。
- ▶ 「思考力・判断力・表現力等を問う問題」
 - 選択式の「聞く」、「読む」問題
 - 記述式設問での「書く」問題
 - 会話形式での「話す」問題

聞くこと、読むこと、見ることを通じて、取得した情報や考えや論理的思考に基づいて、最適な答えを選択したり、書いたり、話したり、表現できるレベルの確認

学習指導要領との対応

- ▶ 「外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。」するとの観点から、全ての連絡や関係書類そしてシステム表示は英語で提供することで、実際の英語環境での判断やテクノロジーを活用する技能を身につける
- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語

- ▶ アクティブラーニングの推進のための英語能力評価設定の指標として利用が可能。

出題形式

- ▶ 「聞く」： 選択式 (20 分から 30 分)
- ▶ 「読む」： 選択式 (「書く」と合わせて 80 分から 160 分)
- ▶ 「書く」： 記述式 (「読む」と合わせて 80 分から 160 分)
- ▶ 「話す」： 会話形式 (6 分から 15 分)

難易度その他出題に関する事項の概略を記載すること

- ▶ モジュール毎に CEFR に準拠した A1 レベルから C1 レベルまでの難易度を調整して出題します。
(Mastery C2 も提供を実施しているが今回は認可を申請しない)
- ▶ CEFR のレベルは、英国、ウェールズ、北アイルランドの Regulated Qualifications Framework のレベルにマッピングされています (Pathways to Proficiency: the alignment of language proficiency scales for assessing competence in English Language DFES / QCA, 2003 をご参照ください)。

(2) 構成等

- ▶ 出題形式
- ▶ 詳細は補足資料をご参照ください。
- ▶ 聞く： 選択式： 読むと合わせて 52 問
- ▶ 読む： 選択式： 聞くと合わせて 52 問
- ▶ 書く： 記述式： 2 問
- ▶ 話す： 会話形式： 8 から 10 問
- ▶ 利用システム
- ▶ 教室内試験
 - 聞く： 音声ファイル拡声器材、紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 読む： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 書く： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 話す： (当面オンライン試験のみ)
- ▶ オンライン・プロクタリング試験 (または顧客施設内 CBT 試験)
 - (オンライン・プロクタリング試験は遠隔地の試験監督員の監視のもとで受験をするオンライン試験)
 - 聞く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 読む： 当社専用オンライン試験サービス
 - 書く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 話す： 当社専用オンライン試験サービス (音声でのリアルタイム対話)
- ▶ 出題範囲
- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語

- ▶ 添付資料を参照ください。

(3) 難易度設定の考え方・方法

- ▶ LanguageCert ESOL 英語資格は、CEFR に完全準拠するように開発運営されています。
- ▶ 試験フォームまたは試験問題等価値性を担保するために様々な手法が利用されています。
- ▶ 過去数十年にのぼる設問開発と管理によるテスト理論と各種数値情報と経験則を利用した試験仕様書並びに試験問題作成のガイドラインを利用しています。
- ▶ 試験は、予備試験と実際の試験を通じたラッシュ(Rasch)モデルと項目応答理論の各種データを活用した LanguageCert 項目難易度特性スケールへとアイテムバンキングで管理されます。
- ▶ サブジェクトベースのスピーキングとライティングの項目は、公平で、真意合理性と同一レベルの難易度を事前に試行して検証の上管理しています。
- ▶ 有効性、信頼性、管理特性、等価性、バイアス管理などの原則が毀損される可能性のある場合、クオリフィケーション開発マネージャーは、担当役員にその旨の報告と指示を受けた上で、該当する管理基準や監督規制に基づき試験開発運営との調整をはかっています。
- ▶ CEFR の難易度に準拠するための方法として、数十年にわたる過去の膨大なデータでの検証、内外の専門家による検証、作成管理に関わる標準書面化、作成開発管理に関わる関係者への継続的な研修と習熟性を通じて CEFR に準拠した研究開発を行なっています。
- ▶ 添付資料を参照ください。

(4) 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- ▶ すべての試験環境を英語で提供することで、英語環境での初めての英語試験を実施します。
- ▶ 生徒が自分でコンピュータを設定するなどの作業を通じて、生徒は実際の英語で書かれた情報をもとに、受験までの準備と登録を実施する経験を取得するアクティブラーニングとなります。
- ▶ 学校内だけではなく、ESOL 資格と同等のアプローチは、当社の英国における入国 VISA の発行要件としての英語認定資格として、生涯活用できる英語能力のスケールです。
- ▶ 学校内だけの英語学習ではなく、日常的なコミュニケーション方法の認定資格であることを目指しています。
- ▶ A1 から C1 まで幅広い英語能力が測定できる試験を提供します。
- ▶ 最上級レベルである C2 レベルの試験も同様に提供できますので、より高いレベルを目指す機会にもなります。

5) その他特長

- ▶ 基本的には、オンライン・プロクタリング試験を推奨しますが、紙試験と CBT のすべてにおいて、等価性が保てるように適宜管理されています。
- ▶ 全世界で行われている英語テストの結果を元に 4 技能におけるアダプティブテストを開発しております。巨大なデータに基づいた分析的なアプローチを用いておりますので、試験の質については常に維持されております。

II. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

- ▶ 結果提供項目：スキル別の得点、Pass (試験の合格) / High Pass (高得点合格)、

Can-do-statement 内容

- ▶ CEFR に準拠のレベルに応じて、ハンドブックを通じて"Can-do-statement"を提供しますので、何が求められているのか、どのレベルであるのかは明確に記述されます。
- ▶ 国際的に利用されている同一基準の資格のために、特定の国にたいしての特別な様式の変更は現時点では行っていません。将来的に、日本での母集団が一定数を超過して各種分析と検証が可能な場合には、学習要項に対応する内容を考慮した内容にしていくことも考えられます。
- ▶ 受験者は、試験結果の確定通知を電子メールで連絡され、Statement of Results（SOR:試験結果）と Certificate（認定証）がリリースされます。添付サンプル参照の事。
- ▶ Certificate には 各レベルの合格不合格が表示されます。
- ▶ Statement of Results（SOR:試験結果）は、LanguageCert のウェブサイトから受験者はダウンロードすることができます。SOR には、スキル別のスコアと総合スコアが記載されます。
- ▶ Certificate（認定証）は、試験に合格して認定書を付与される受験者のみ発行されます。認定書には、取得した資格とグレードが表示されます。
- ▶ 受験者が望む場合には、受験結果の時系列の比較をウェブサイトで実施可能となります。
- ▶ 受験者が望む場合には、デジタルバッジまたは電子認定証などを通じて企業、各種学校、大学などに提出することが可能です。
- ▶ 受験者のスキル別のスコアの向上のために SOR を利用していただくことが考えられます。スキル別にスコアが出ますので、先生方が後でフィードバックされる時に役立ちます。
- ▶ 添付資料を参照ください。

(2) 学校等への結果提供内容・方法

- ▶ MI(Management Information)とレポート・ソリューションを通じて、契約単位である学校、教育委員会などに可視化された情報を提供します。
- ▶ 多くの国の顧客が、標準のレポートまたはカスタマイズされたレポートを利用しています。日本においても同じアプローチがとられ、すべてのレポートは文科省または依頼者の要件に合わせて変更することができます。標準化されたレポートには、次の項目が含まれます。
 - ・ クラスとグレードレベルによる概要と分析結果(平均スコア、スコア分布などを含む)
 - ・ 時間の経過に伴うスコアの変化
 - ・ 教室のパフォーマンス、地域のパフォーマンス
 - ・ 成績のパフォーマンス
 - ・ 平均スコアなど
- ▶ 必要に応じて、学校、教育委員会などの職員が、特定のデータをフィルタリングして抽出し、独自のアドホックレポートと分析を作成することができます。
- ▶ また、上記のレポートは、当社のシステムへアクセスすることなく定期的に特定電子メールで送付することも可能です。
- ▶ レポート作成プロセスをサポートするためのビジネス インテリジェンス (BI) チームがいます。これらは、何百万もの試験で実用的な洞察結果を生み出した経験を持つ専門のアナリストです。共同してよりよいレポート作りを促進いたします。

(3) 試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法

- ▶ 別紙に記載されているように、当試験は CEFR の作成開発に関わった関係者により、完全に且つ慎重に準拠するために複数の作業を実施して検証しています。
- ▶ アイテムデータバンクには、当社独自のマッピングスケールをはじめとした各種の項目反応理

論に基づいて計算された値によるテスト項目が収められています。設問作成、試験、回答分析、検証といった流れがテスト作成の専門家によって実施されています。

- ▶ コンピュータを用いた選択問題は設問に応じた自動的採点を実施します。人間による採点が必要なものは、審査員の厳密な研修と相当数の採点検証のための試験を実施します。
- ▶ 審査員は、基本的に当社従業員として継続的に審査基準との不一致度を是正するための研修、改善を行なっております。
- ▶ 試験とその評価検証として、定期的に、言語評価開発マネージャと資格開発マネージャの主導する様々な有識者、経験者、計量心理専門家、言語教育専門家による検証と議論をへて、開発チーム及び取締役会、諮問委員会などへ報告をされ事業計画に盛り込まれます。
- ▶ 過去のスコアとの比較は、個人情報として許諾されている範囲のデータを用いて受験者の過去スキル別スコア、母集団の統計指標数値などを比較した上、傾向や考えられるように表示されています。
- ▶ 詳細は添付のハンドブックをご参照ください。

III. 運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

- ▶ 目的への適合性を確保し、有効性に関する専門家のフィードバックと計量心理学またはその他の科学的な検証を考慮した評価を提供するように設計されています。
- ▶ 妥当性、信頼性、等価性、バイアス特性、管理特性を管理するため、以下の手法を用いています。
 - ✧ アイテムバンキングシステム、項目反応理論、LanguageCert アイテム難易度スケール (LID)、カリブレーション作業、マーキングとグレーディング手法、事前の予備試験を通じた項目データの収集と分析、アンカー項目等を利用した検証
- ▶ 試験問題のコピーや持ち帰りは固く禁止されており、露出係数などの複数の指標をつうじて設問のパラメータが正常に期待できる数値であることを確認しております。
- ▶ 資格試験評価開発チームとアドバイザーボードは定期的に試験の結果をもとに、開発運営の修正などの議論を重ねています。この開発チームのメンバーが連携する日本市場の主たるのステークホルダーとの協議をへて展開された結果を、開発チームおよび取締役会のメンバーと諮問委員会との間で目標、課題、将来の事業計画へとつなげてゆきます。
- ▶ 言語試験の品質を維持するために弊社専門部門の専門家により毎年調査を行い、研究内容をウェブサイト等で公開しております。
- ▶ 試験の品質を担保する手法の詳細は、添付資料をご参照ください。

(2) 学校における実施方法

- ▶ LanguageCert のオンラインプロクタリング試験 (OLP 試験) は、“オンデマンド”形式となっております。都合の良い時間に、・自宅または学校から受験が可能です。また、学校または施設での集団受験が可能となっております。
- ▶ 自宅から生徒が受験する OLP 試験を使用したコンピュータベースのオンライン試験。訓練を受けた試験監督官と対話者 (インターロキューター) は、LanguageCert によって提供されます。
- ▶ 当社の推奨の試験システムである OLP は、学校は当社から試験 (バウチャー) コードを生徒へ配布、または当社システム上から電子的にすべての生徒にたいして試験 (バウチャー) コードと受験登録へのアクセス情報が提供されます。生徒は、指示に従って試験登録と受験を実施します。試験

結果も生徒へ電子的に配布され、学校担当者も当社 PASSPORT 試験運営システムより適宜ダウンロードすることが可能です。

- ▶ OLP 試験を推奨しますが、学校側の希望で他手段を利用する場合には、以下の方法も提供します。
 - ✧ 教師または学校側の試験監督による紙ベースの試験（教室試験）
 - ✧ 教師または学校側の試験監督によるコンピュータベースの試験（教室試験）
- ▶ OLP 試験以外は学校側での受験運営になりますが、基本的に同じプロセスを踏襲します。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

（３）採点の方法と体制

- ▶ 100 年を超える英語言語の試験を作成している経験を持つ試験開発チームは、試験の開発と品質を確保しています。
- ▶ 当社のシステムは、データの保全、個人情報管理、知的財産情報管理、監査記録と管理のために、すべての処理を電子化した上で、修正員、採点員といった試験結果に影響を与える当事者の行動はすべてモニタリングされ、記録されています。
- ▶ マークシートの場合には、スキャン後に送付、または当社専用のスマートフォンのアプリケーションで写真撮影することで自動的に当社システムへ送付されとマーキングシステムが電子的にスコアリングを一定のアルゴリズムで実施します。不鮮明な回答などの場合には、修正員が確認の上で、監査記録と手順に従って回答への修正を加えます。
- ▶ コンピュータを利用している場合には自動的にコンピュータがスコアリングを実施します。回答に何らかの問題が特定されると、スコアリングタスクは専門チームへの審査と検証にまわり日数をようすることになります。
- ▶ 採点に関わる人員はすべてセキュアなアクセスが管理された部屋で実施しており、関係者以外はその部屋への立ち入りが限定されています。
- ▶ スピーキングとライティングに関わる採点には、当社スタッフとして約 50 名の社員を専従員として対応しており、それ以外に、200 名の補助人員がおります。現時点では、必要にして十分な対応能力を維持しております。
- ▶ 口頭試験などの採点員は日本国内での利用はなく、すべて海外在住の経験者により実施されます。そのため、スピーキング試験はすべて OLP 試験となります。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

（４）情報管理体制

- ▶ LanguageCert とその 親会社 である PeopleCert は、業界で最も品質の高い国際標準認定プロバイダーの 2 社で、長年の認定/認定を保持しています。
 - ISO 9001：品質マネジメント -2000 年以降
 - ISO 14001：環境マネジメント - 2006 年以降
 - ISO 10002：顧客満足度と苦情処理 - 2006 年以降
 - ISO 27001：情報セキュリティ - 2008 年以降
 - ISO 23988：アセスメント提供における情報技術 - 2013 年以降
 - ISO 22301：ビジネス継続性 - 2015 年以降
 - サイバーエッセンシャル - 2018 年以降（サイバーエッセンシャルは、情報セキュリティの

良い慣行を採用するための英国政府の支援情報保証スキームです.これは、英国国家サイバーセキュリティセンターによって運営されています)。

- ▶ システムは、包括的なセキュリティポリシーとプロトコルのスイートで保護されている Microsoft Azure クラウドを使用します。マイクロソフトは、次の ISO 認定を保持しています(20000-1; 223001; 27001; 27071; 27018; 27701 と 9001) マイクロソフトは、サイバーエッセンシャルプラス認定も保有しています。認定および継続的な認定プロセスの一環として、マイクロソフト Azure は、CREST 認定プロバイダーである NCC グループによって毎年テストされています。システムは、(境界ファイアウォールとインターネットゲートウェイ、安全な構成、アクセス制御、マルウェア対策とパッチ管理)の5つのナショナル・サイバーセキュリティ・センターの制御キーによって管理されています。

IV. 情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

- ▶ 試験開発工程の規則により障害のある受験者または特定の集団にたいして、公平性を担保するための手段が取られています。
- ▶ 合理的な調整と特別な考慮事項として、診断書などの記録のもとに、約 20 名のスタッフがこのポリシーの専門家として研修を受けて各種施策を実施します。
例： 試験時間の延長、筆記者支援、試験問題の文字やフォントの拡大表示、点字の資料の提供、色付きのテストペーパーまたはテストスクリーンの背景の提供
- ▶ また、これらの支援に際しての記録は、受験者情報と試験運営サービスである PASSPORT サービスに監査が可能なデータとして電子的記録されます。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

- ▶ 日本市場への参入にあたり、現時点ではすべての関連システムは英語表示のままですが、日本語での表示も少しずつ行なっております。ただ、新しい学習指導要項に記載されているように、探究的な学び、または、主体的な経験という観点において、英語を英語のまま理解するというスタンスも普及していければと考えております。
- ▶ 日常的に英語に触れて利用することが基本ですが、試験を受験するために必要な理解と準備のために情報をオンラインで提供しています。試験構成、模擬試験、推奨教科書、受験者または教師向けのウェビナーが提供されています。
- ▶ 情報は英語で提供されていますが、サポートとして Google Chrome などの自動変換を利用して日本語で利用することも可能です。
- ▶ 当社が保有する英語教材をはじめとして内容に関しての継続的なサポートをいたします。個別学校または教育委員会の要求事項に応じていきたいと考えております。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

- ▶ 個別学校または教育委員会の要求事項に応じます。

(4) 個人受験の可否

- ▶ 個人受験は可能としています。
- ▶ 学校に所属する生徒として、または個人として生徒は受験をすることができます。個人として受験する場合には、LanguageCert の国内パートナーまたはウェブサイトより申し込みと予約が可能です。利便性の観点から、個人受験の場合には OLP 試験を利用したインターネットでの受験となると想定されます。

(5) 問題内容の情報提供

- ▶ 既出問題の提供または公開は実施しておりません。
- ▶ ランゲージサートのウェブサイトまたはピープルサートの日本語ウェブサイトから以下の情報提供を実施しています。
 - ▶ サンプル問題集と正答例、試験概要、クイックレベルチェックは当社ウェブサイトは無償公開

しており、学校・生徒の利用が幅広く行われております。

(6) その他

- ▶ ランゲージサートは、世界でも有数な認定資格団体である親会社ピープルサートと共に、グローバルなプロフェッショナルとして求められる言語能力、テクノロジー能力などを幅広く提供を可能にしています。英語だけの教育ではなく、アクティブラーニングの一環としてソリューションを提供できる可能性があります。例、テクノロジーの利用方法を英語で勉強する、数学の授業を英語で勉強するなど。
- ▶ 教育システムへの連携として、生徒のプロファイルにデジタルバッジを記載、または XML 等のファイルでのシステム連携が可能となります。

(様式2)

認定要件への適合性の申告内容について

事業者名： ピープルサート・クオリフィケーション・リミテッド
測定ツール名： LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Level 2) (Listening, Reading, Writing - Expert C1)
 LanguageCert Entry Level Certificate in ESOL International (Level 2) (Speaking - Expert C1)
対象教科： 英語
測定内容の区分： 標準

I。出題に関すること

(1) 出題の基本方針

主な対象者

- ▶ 英語を母国語としない学習者
- ▶ グローバルな主体的な経験を求める生徒
- ▶ 習熟度に応じた学習のための英語能力評価が必要な生徒

測定しようとする資質・能力

- ▶ 国際的な英語圏での日常生活での「聞く」「読む」「書く」そして「話す」こと

出題範囲

- ▶ 英語圏での日常生活に必要とされる英語でのコミュニケーション

知識・技能を問う問題の出題方針

- ▶ 「知識・技能を問う問題の出題方針」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題の出題方針」に関して, Language Cert の英語テストは, CEFR の Can-do statement に準拠しています。Can-do で測るため「知識, 技能がある」ということは「思考力, 判断力, 表現力」と密接に関連した総合力としての英語の力を測ると考えております。そのため, 他の CEFR に準拠している英語テストと同じように, 多くの場合「知識・技能を問う問題」, 「思考力、判断、表現力のみを問う問題」と分かれていません。
- ▶ 「知識, 技能を問う問題」「思考力・判断力・表現力等を問う問題」
 - 選択式の「聞く」、「読む」問題
 - 記述式設問での「書く」問題
 - 会話形式での「話す」問題

聞くこと、読むこと、見ることを通じて、取得した情報や考えや論理的思考に基づいて、最適な答えを選択したり、書いたり、話したり、表現できるレベルの確認

学習指導要領との対応

- ▶ 「外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深めるとともに, これらの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。」するとの観点から、全ての連絡や関係書類そしてシステム表示は英語で提供することで、実際の英語環境での判断やテクノロジーを活用する技能を身につける
- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、

「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語

- ▶ アクティブラーニングの推進のための英語能力評価設定の指標として利用が可能。

出題形式

- ▶ 「聞く」： 選択式 (20 分から 30 分)
- ▶ 「読む」： 選択式 (「書く」と合わせて 80 分から 160 分)
- ▶ 「書く」： 記述式 (「読む」と合わせて 80 分から 160 分)
- ▶ 「話す」： 会話形式 (6 分から 15 分)

難易度その他出題に関する事項の概略を記載すること

- ▶ モジュール毎に CEFR に準拠した A1 レベルから C1 レベルまでの難易度を調整して出題します。
(Mastery C2 も提供を実施しているが今回は認可を申請しない)
- ▶ CEFR のレベルは、英国、ウェールズ、北アイルランドの Regulated Qualifications Framework のレベルにマッピングされています (Pathways to Proficiency: the alignment of language proficiency scales for assessing competence in English Language DFES / QCA, 2003 をご参照ください)。

(2) 構成等

- ▶ 出題形式
- ▶ 詳細は補足資料をご参照ください。
- ▶ 聞く： 選択式： 読むと合わせて 52 問
- ▶ 読む： 選択式： 聞くと合わせて 52 問
- ▶ 書く： 記述式： 2 問
- ▶ 話す： 会話形式： 8 から 10 問
- ▶ 利用システム
- ▶ 教室内試験
 - 聞く： 音声ファイル拡声器材、紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 読む： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 書く： 紙試験用紙とマークシートと筆記具
 - 話す： (当面オンライン試験のみ)
- ▶ オンライン・プロクタリング試験 (または顧客施設内 CBT 試験)
 - (オンライン・プロクタリング試験は遠隔地の試験監督員の監視のもとで受験をするオンライン試験)
 - 聞く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 読む： 当社専用オンライン試験サービス
 - 書く： 当社専用オンライン試験サービス
 - 話す： 当社専用オンライン試験サービス (音声でのリアルタイム対話)
- ▶ 出題範囲
- ▶ 中学校での英語および高校での学習「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、

「英語コミュニケーションⅢ」での学習内容を利用した英語圏での一般的生活での英語

- ▶ 添付資料の参照ください。

(3) 難易度設定の考え方・方法

- ▶ LanguageCert ESOL 英語資格は、CEFR に完全準拠するように開発運営されています。
- ▶ 試験フォームまたは試験問題等価性を担保するために様々な手法が利用されています。
- ▶ 過去数十年にのぼる設問開発と管理によるテスト理論と各種数値情報と経験則を利用した試験仕様書並びに試験問題作成のガイドラインを利用しています。
- ▶ 試験は、予備試験と実際の試験を通じたラッシュ(Rasch)モデルと項目応答理論の各種データを活用した LanguageCert 項目難易度特性スケールへとしてアイテムバンキングで管理されます。
- ▶ サブジェクトベースのスピーキングとライティングの項目は、公平で、真意合理性と同一レベルの難易度を事前に試行して検証の上管理しています。
- ▶ 有効性、信頼性、管理特性、等価性、バイアス管理などの原則が毀損される可能性のある場合、クオリフィケーション開発マネージャーは、担当役員にその旨の報告と指示を受けた上で、該当する管理基準や監督規制に基づき試験開発運営との調整をはかっています。
- ▶ CEFR の難易度に準拠するための方法として、数十年にわたる過去の膨大なデータでの検証、内外の専門家による検証、作成管理に関わる標準書面化、作成開発管理に関わる関係者への継続的な研修と習熟性を通じて CEFR に準拠した研究開発を行なっています。

添付資料を参照ください。

(4) 基礎学力の定着や学習意欲の喚起を図るための工夫

- ▶ すべての試験環境を英語で提供することで、英語環境での初めての英語試験を実施します。
- ▶ 生徒が自分でコンピュータを設定するなどの作業を通じて、生徒は実際の英語で書かれた情報をもとに、受験までの準備と登録を実施する経験を取得するアクティブラーニングとなります。
- ▶ 学校内だけではなく、ESOL 資格と同等のアプローチは、当社の英国における入国 VISA の発行要件としての英語認定資格として、生涯活用できる英語能力のスケールです。
- ▶ 学校内だけの英語学習ではなく、日常的なコミュニケーション方法の認定資格であることを目指しています。
- ▶ A1 から C1 まで幅広い英語能力が測定できる試験を提供します。
- ▶ 最上級レベルである C2 レベルの試験も同様に提供できますので、より高いレベルを目指す機会にもなります。

(5) その他特長

- ▶ 基本的には、オンライン・プロクタリング試験を推奨しますが、紙試験と CBT のすべてにおいて、等価性が保てるように適宜管理されています。
- ▶ 全世界で行われている英語テストの結果を元に 4 技能におけるアダプティブテストを開発しております。巨大なデータに基づいた分析的なアプローチを用いておりますので、試験の質については常に維持されております。

II. 結果提供に関すること

(1) 受検者個人への結果提供内容・方法

- ▶ 結果提供項目：スキル別の得点、Pass (試験の合格) / High Pass (高得点合格)、

Can-do-statement 内容

- ▶ CEFR に準拠のレベルに応じて、ハンドブックを通じて"Can-do-statement"を提供しますので、何が求められているのか、どのレベルであるのかは明確に記述されます。
- ▶ 国際的に利用されている同一基準の資格のために、特定の国にたいしての特別な様式の変更は現時点では行っていません。将来的に、日本での母集団が一定数を超過して各種分析と検証が可能な場合には、学習要項に対応する内容を考慮した内容にしていくことも考えられます。
- ▶ 受験者は、試験結果の確定通知を電子メールで連絡され、Statement of Results（SOR:試験結果）と Certificate（認定証）がリリースされます。添付サンプル参照の事。
- ▶ Certificate には 各レベルの合格不合格が表示されます。
- ▶ Statement of Results（SOR:試験結果）は、LanguageCert のウェブサイトから受験者はダウンロードすることができます。SOR には、スキル別のスコアと総合スコアが記載されます。
- ▶ Certificate（認定証）は、試験に合格して認定書を付与される受験者のみ発行されます。認定書には、取得した資格とグレードが表示されます。
- ▶ 受験者が望む場合には、受験結果の時系列の比較をウェブサイトで実施可能となります。
- ▶ 受験者が望む場合には、デジタルバッジまたは電子認定証などを通じて企業、各種学校、大学などに提出することが可能です。
- ▶ 受験者のスキル別のスコアの向上のために SOR を利用していただくことが考えられます。スキル別にスコアが出ますので、先生方が後でフィードバックされる時に役立ちます。
- ▶ 添付資料を参照ください。

（２） 学校等への結果提供内容・方法

- ▶ MI(Management Information)とレポート・ソリューションを通じて、契約単位である学校、教育委員会などに可視化された情報を提供します。
- ▶ 多くの国の顧客が、標準のレポートまたはカスタマイズされたレポートを利用しています。日本においても同じアプローチがとられ、すべてのレポートは文科省または依頼者の要件に合わせて変更することができます。標準化されたレポートには、次の項目が含まれます。
 - ・ クラスとグレードレベルによる概要と分析結果(平均スコア、スコア分布などを含む)
 - ・ 時間の経過に伴うスコアの変化
 - ・ 教室のパフォーマンス、地域のパフォーマンス
 - ・ 成績のパフォーマンス
 - ・ 平均スコアなど
- ▶ 必要に応じて、学校、教育委員会などの職員が、特定のデータをフィルタリングして抽出し、独自のアドホックレポートと分析を作成することができます。
- ▶ また、上記のレポートは、当社のシステムへアクセスすることなく定期的に特定電子メールで送付することも可能です。
- ▶ レポート作成プロセスをサポートするためのビジネス インテリジェンス (BI) チームがいます。これらは、何百万もの試験で実用的な洞察結果を生み出した経験を持つ専門のアナリストですので、共同してよりよいレポート作りを促進いたします。

（３） 試験等の結果（正答状況やスコア等）に対する評価の考え方と分析の手法

- ▶ 別紙に記載されているように、当試験は CEFR の作成開発に関わった関係者により、完全に且つ慎重に準拠するために複数の作業を実施して検証しています。
- ▶ アイテムデータバンクには、当社独自のマッピングスケールをはじめとした各種の項目反応理

論に基づいて計算された値によるテスト項目が収められています。設問作成、試験、回答分析、検証といった流れがテスト作成の専門家によって実施されています。

- ▶ コンピュータを用いた選択問題は設問に応じた自動的採点を実施します。人間による採点が必要なものは、審査員の厳密な研修と相当数の採点検証のための試験を実施します。
- ▶ 審査員は、基本的に当社従業員として継続的に審査基準との不一致度を是正するための研修、改善を行なっております。
- ▶ 試験とその評価検証として、定期的に、言語評価開発マネージャと資格開発マネージャの主導する様々な有識者、経験者、計量心理専門家、言語教育専門家による検証と議論をへて、開発チーム及び取締役会、諮問委員会などへ報告をされ事業計画に盛り込まれます。
- ▶ 過去のスコアとの比較は、個人情報として許諾されている範囲のデータを用いて受験者の過去スキル別スコア、母集団の統計指標数値などを比較した上、傾向や考えられるように表示されています。
- ▶ 詳細は添付のハンドブックをご参照ください。

Ⅲ。運営に関すること

(1) 問題の質を確保するための方法

- ▶ 目的への適合性を確保し、有効性に関する専門家のフィードバックと計量心理学またはその他の科学的な検証を考慮した評価を提供するように設計されています。
- ▶ 妥当性、信頼性、等価性、バイアス特性、管理特性を管理するため、以下の手法を用いています。
 - ☆ アイテムバンキングシステム、項目反応理論、LanguageCert アイテム難易度スケール (LID)、カリブレーション作業、マーキングとグレーディング手法、事前の予備試験を通じた項目データの収集と分析、アンカー項目等を利用した検証
- ▶ 試験問題のコピーや持ち帰りは固く禁止されており、露出係数などの複数の指標をつうじて設問のパラメータが正常に期待できる数値であることを確認しております。
- ▶ 資格試験評価開発チームとアドバイザリーボードは定期的に試験の結果をもとに、開発運営の修正などの議論を重ねています。この開発チームのメンバーが連携する日本市場の主たるのステークホルダーとの協議をへて展開された結果を、開発チームおよび取締役会のメンバーと諮問委員会との間で目標、課題、将来の事業計画へとつなげてゆきます。
- ▶ 言語試験の品質を維持するために弊社専門部門の専門家により毎年調査を行い、研究内容をウェブサイト等で公開しております。
- ▶ 試験の品質を担保する手法の詳細は、添付資料をご参照ください。

(2) 学校における実施方法

- ▶ LanguageCert のオンラインプロクトラリング試験 (OLP 試験) は、“オンデマンド”形式となっております。都合の良い時間に、・自宅または学校から受験が可能です。また、学校または施設での集団受験が可能となっております。
- ▶ 自宅から生徒が受験す OLP 試験を使用したコンピュータベースのオンライン試験。訓練を受けた試験監督官と対話者 (インターロキューター) は、LanguageCert によって提供されます。
- ▶ 当社の推奨の試験システムである OLP は、学校は当社から試験 (バウチャー) コードを生徒へ配布、または当社システム上から電子的にすべての生徒にたいして試験 (バウチャー) コードと受験登録へのアクセス情報が提供されます。生徒は、指示に従って試験登録と受験を実施します。試験結果も生徒へ電子的に配布され、学校担当者も当社 PASSPORT 試験運営システムより適宜ダウン

ロードすることが可能です。

- ▶ OLP 試験を推奨しますが、学校側の希望で他手段を利用する場合には、以下の方法も提供します。
 - ◇ 教師または学校側の試験監督による紙ベースの試験（教室試験）
 - ◇ 教師または学校側の試験監督によるコンピュータベースの試験（教室試験）
- ▶ OLP 試験以外は学校側での受験運営になりますが、基本的に同じプロセスを踏襲します。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

（３）採点の方法と体制

- ▶ 100 年を超える英語言語の試験を作成している経験を持つ試験開発チームは、試験の開発と品質を確保しています。
- ▶ 当社のシステムは、データの保全、個人情報管理、知的財産情報管理、監査記録と管理のために、すべての処理を電子化した上で、修正員、採点員といった試験結果に影響を与える当事者の行動はすべてモニタリングされ、記録されています。
- ▶ マークシートの場合には、スキャン後に送付、または当社専用のスマートフォンのアプリケーションで写真撮影することで自動的に当社システムへ送付されとマーキングシステムが電子的にスコアリングを一定のアルゴリズムで実施します。不鮮明な回答などの場合には、修正員が確認の上で、監査記録と手順に従って回答への修正を加えます。
- ▶ コンピュータを利用している場合には自動的にコンピュータがスコアリングを実施します。回答に何らかの問題が特定されると、スコアリングタスクは専門チームへの審査と検証にまわり日数をようすることになります。
- ▶ 採点に関わる人員はすべてセキュアなアクセスが管理された部屋で実施しており、関係者以外はその部屋への立ち入りが限定されています。
- ▶ スピーキングとライティングに関わる採点には、当社スタッフとして約 50 名の社員を専従員として対応しており、それ以外に、200 名の補助人員がおります。現時点では、必要にして十分な対応能力を維持しております。
- ▶ 口頭試験などの採点員は日本国内での利用はなく、すべて海外在住の経験者により実施されます。そのため、スピーキング試験はすべて OLP 試験となります。
- ▶ 添付資料をご参照ください。

（４）情報管理体制

- ▶ LanguageCert とその 親会社 である PeopleCert は、業界で最も品質の高い国際標準認定プロバイダーの 2 社で、長年の認定/認定を保持しています。
 - ・ ISO 9001：品質マネジメント -2000 年以降
 - ・ ISO 14001：環境マネジメント - 2006 年以降
 - ・ ISO 10002：顧客満足度と苦情処理 - 2006 年以降
 - ・ ISO 27001：情報セキュリティ - 2008 年以降
 - ・ ISO 23988：アセスメント提供における情報技術 - 2013 年以降
 - ・ ISO 22301：ビジネス継続性 - 2015 年以降
 - ・ サイバーエッセンシャル - 2018 年以降（サイバーエッセンシャルは、情報セキュリティの良い慣行を採用するための英国政府の支援情報保証スキームです。これは、英国国家サイ

バーセキュリティセンターによって運営されています)。

- ▶ システムは、包括的なセキュリティポリシーとプロトコルのスイートで保護されている Microsoft Azure クラウドを使用します。マイクロソフトは、次の ISO 認定を保持しています(20000-1; 223001; 27001; 27071; 27018; 27701 と 9001) マイクロソフトは、サイバーエッセンシャルプラス認定も保有しています。認定および継続的な認定プロセスの一環として、マイクロソフト Azure は、CREST 認定プロバイダーである NCC グループによって毎年テストされています。システムは、(境界ファイアウォールとインターネットゲートウェイ、安全な構成、アクセス制御、マルウェア対策とパッチ管理)の5つのナショナル・サイバーセキュリティ・センターの制御キーによって管理されています。

IV。情報開示に関すること

(1) 障害のある受検者等への配慮

- ▶ 試験開発工程の規則により障害のある受験者または特定の集団にたいして、公平性を担保するための手段が取られています。
- ▶ 合理的な調整と特別な考慮事項として、診断書などの記録のもとに、約 20 名のスタッフがこのポリシーの専門家として研修を受けて各種施策を実施します。
例： 試験時間の延長、筆記者支援、試験問題の文字やフォントの拡大表示、点字の資料の提供、色付きのテストペーパーまたはテストスクリーンの背景の提供
- ▶ また、これらの支援に際しての記録は、受験者情報と試験運営サービスである PASSPORT サービスに監査が可能なデータとして電子的記録されます。

(2) 事前／事後学習教材の有無、内容

- ▶ 日本市場への参入にあたり、現時点ではすべての関連システムは英語表示のままですが、日本語での表示も少しずつ行なっております。ただ、新しい学習指導要項に記載されているように、探究的な学び、または、主体的な経験という観点において、英語を英語のまま理解するというスタンスも普及していければと考えております。
- ▶ 日常的に英語に触れて利用することが基本ですが、試験を受験するために必要な理解と準備のために情報をオンラインで提供しています。試験構成、模擬試験、推奨教科書、受験者または教師向けのウェビナーが提供されています。
- ▶ 情報は英語で提供されていますが、サポートとして Google Chrome などの自動変換を利用して日本語で利用することも可能です。
- ▶ 当社が保有する英語教材をはじめとして内容に関しての継続的なサポートをいたします。個別学校または教育委員会の要求事項に応じていきたいと考えております。

(3) 学習状況等のアンケートの有無、内容

- ▶ 個別学校または教育委員会の要求事項に応じます。

(4) 個人受験の可否

- ▶ 個人受験は可能としています。
- ▶ 学校に所属する生徒として、または個人として生徒は受験をすることができます。個人として受験する場合には、LanguageCert の国内パートナーまたはウェブサイトより申し込みと予約が可能です。利便性の観点から、個人受験の場合には OLP 試験を利用したインターネットでの受験となると想定されます。

(5) 問題内容の情報提供

- ▶ 既出問題の提供または公開は実施しておりません。
- ▶ LanguageCert のウェブサイトまたはピープルサートの日本語ウェブサイトから以下の情報提供を実施しています。
 - ▶ サンプル問題集と正答例、試験概要、クイックレベルチェックは当社ウェブサイトでは無償公開しており、学校・生徒の利用が幅広く行われております。

(6) その他

- ▶ LanguageCert は、世界でも有数な認定資格団体である親会社ピープルサートと共に、グローバルなプロフェッショナルとして求められる言語能力、テクノロジー能力などを幅広く提供を可能にしています。英語だけの教育ではなく、アクティブラーニングの一環としてソリューションを提供できる可能性があります。例、テクノロジーの利用方法を英語で勉強する、数学の授業を英語で勉強するなど。
- ▶ 教育システムへの連携として、生徒のプロファイルにデジタルバッジを記載、または XML 等のファイルでのシステム連携が可能となります。

(様式3)

認定要件への適合性を示す書類等一覧について

事業者名: ピープルサート・クオリフィケーション・リミテッド
測定ツール名: LanguageCert International ESOL 資格
対象教科: 英語
測定内容の区分: 標準

Ⅰ. 出題に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準				
			I. (1)	I. (2)	I. (3)	I. (4)	I. (5)
サポート資料	LanguageCert MoE Supporting Document 2021	資料A	○	○	○	○	○
参考資料							
Development Manual	Qualifications Development Manual.pdf	参考B	○	○	○	○	○
IESOL 認定試験 ハンドブック (リスニング、リーディング、ライティング)	Qualification Handbook IESOL (Listening, Reading, Writing)	参考C	○	○	○	○	○
IESOL 認定試験 ハンドブック (スピーキング)	Qualification Handbook IESOL (Speaking)	参考D	○	○	○	○	○

Ⅱ. 結果提供に関すること

<提出任意の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号	対応する認定基準	
			Ⅱ. (1)	Ⅱ. (2)
サポート資料	LanguageCert MoE Supporting Document 2021	資料A	○	○

Ⅲ. 運営に関すること

<提出必須の書類等>

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
受験者ガイド (例)	LC_JPN_Candidate_registration_manual.pdf	資料H

<提出任意の書類等>

※様式2における「Ⅲ. 運営に関すること」の記載内容を補足する書類等がある場合に提出。

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
--------	--------	------

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
サポート資料	LanguageCert MoE Supporting Document 2021	資料A

IV. 情報開示に関すること

<提出任意の書類等>

※様式2における「IV. 情報開示に関すること」の記載内容を補足する書類等がある場合に提出。

書類等の内容	書類等の名称	資料番号
サポート資料	LanguageCert MoE Supporting Document 2021	資料A

(様式4)

測定しようとする資質・能力の具体的内容について

事業者名：PeopleCert Qualifications Ltd(ピープルサート・クオリフィケーションリミテッド)

測定ツール名：IESOL - 3 skills A1 Preliminary、IESOL - Speaking Pre A1

対象教科：英語

測定内容の区分：Listening, Reading, Writing and Speaking

※高校学習指導要領（平成30年度版）、中学校学習指導要領（平成29年度版）参考

測定しようとする 資質・能力の具体的 内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
短い文章の中の簡単な重要情報を認識できる	Listening 【設問数】7問 【課題】7つの短文を2回聞いて、文字、単語、図形、記号と一致させる。 【形式】各発話に対して3択の多肢選択問題 *サンプル問題あり(様式5のp.2-3)	聞くこと	高コミ I(1)聞くこと (p.23) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 中第2章第2節(1)(p.18) ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
英語で話される典型的な短文中の機能を理解する	Listening 【設問数】6問 【課題】2人の話者による3つの短い会話を2回聞き、トピック、目的、文脈、話者、要旨、話者間の関係、役割、機能、態度、感情、意見などを特定する。 【形式】各会話に対して3択の多肢選択問題2問	聞くこと	高コミ I(1)聞くこと (p.23) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 中 第2章第2節(1)(p.18) イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする 資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
モノローグから重要な情報を抽出し、タスクを完了させることができる	Listening 【設問数】7問 【課題】ラジオ放送、トーク、ナレーション、プレゼンテーションなどを2回聞いて、具体的な情報を特定する。 【書式】メモ帳またはメッセージパッドのスペースの7つの見出しの下に正しい情報を入れる	聞くこと	高コミ I(1)聞くこと (p. 23) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 中 第2章第2節(1) (p. 18) イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
2人の話し手によるディスカッションについて理解する	Listening 【設問数】6問 【課題】ディスカッションを2回聞き、要点、例、事実、意見、対比、目的、キーアイデア、態度、原因と結果を特定する。 【形式】3択の多肢選択問題6問	聞くこと	高コミ I(1)聞くこと (p. 23) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 中 第2章第2節(1) (p. 18) ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
テキストの構成的特徴および語彙的特徴がわかる	Reading 【設問数】6問 【課題】短文1つのテキストに1つのギャップがある6つの短いテキスト 【形式】各テキストに1つの3択の多肢選択問題を用意し、各問題を正しく完成させる *サンプル問題あり(様式5のp. 5)	読むこと	高コミ I2 内容(1) (p. 29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。 中 第2章第2節2 内容(1) (p. 29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

(様式4)

測定しようとする 資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
簡潔な文章の構造 を理解できる	Reading 【設問数】5問 【課題】5つの削除箇所と1つの錯乱肢付きテキスト 【形式】空白のテキストに続いて、そのテキストを正しく完成させるために5つの選択肢から選ぶ	読むこと	高コミ I2 内容(1) (p. 29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。 中 第2章第2節2内容(1) (p. 29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。
様々なテキストの 目的を認識し、特定の情報を探し出すことができる	Reading 【設問数】7問 【課題】通知書、手紙、アポイントメントカードなど、テーマは同じだが目的が異なる4つの短いテキスト 【形式】文章から情報を抽出する7つの多肢照合問題	読むこと	高コミ 1目標(2) (p. 24) ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 中 第2章第2節1目標(1)読むこと (p. 20) ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
短い文章の意味を理解する (8つの短い文章)	Reading 【設問数】8問 【課題】8つの項目を表に入れる 【書式】各文を適切なテキストに合わせる	読むこと	高コミ I 1目標(2) (p. 24) ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。 中 第2章第2節1目標(1)読むこと (p. 20) イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする 資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
アイデアや基本的な情報を伝えるための簡単な文章を書くことができる	Writing 【設問数】1問(12点) 【課題】与えられたトピックについて、自分のこと、日常生活のこと、人のこと、住んでいる場所のこと、何をしているかなどを書く 【形式】4つの短い自由回答(30語程度)	書くこと	高コI 1目標(5) (p.27) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 中 第2章第2節1目標(5)書くこと(p.27) イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
意図された読者のための短い簡単なテキストを書くことができる	Writing 【設問数】1問(12点) 【課題】与えられた2つの機能に関して手紙、カード、はがき、メッセージを書く 【形式】20～30語の記述式 *サンプル問題あり(様式5のp.6-8)	書くこと	高コI 1目標(5) (p.27) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 中 第2章第2節1目標(5)書くこと(p.27) イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
【時間】6分 個人的なことから話することができる	Speaking 【設問数】5問 【課題】名前の読み方とスペル、出身国を答える 【形式】5つまでの質問に答える *サンプル問題あり(様式5のp.9-10)	話すこと	高コI 1目標(3)話すこと「やり取り」(p.25) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 中 第2章第2節1目標(3)話すこと「やり取り」(p.22) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

(様式4)

測定しようとする 資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
現実の状況において、さまざまな言語機能を用いて、必要に応じて要求したり応答したりしてコミュニケーションを図ることができる	Speaking 【設問数】2問 【課題】2つ以上のシチュエーションが試験官によって提示され、受験者はそれに対して対話を開始する	話すこと	高コI 1目標(3) 話すこと「やり取り」(p. 26) イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。 中 第2章第2節1目標(3) 話すこと「やり取り」(p. 22) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
簡単なタスクを完了するために情報を交換すること	Speaking 【設問数】2問 【課題】近い状況の写真の類似点と相違点を識別するために情報を交換する	話すこと	高コI 1目標(3) 話すこと「やり取り」(p. 25) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 中 第2章第2節1目標(3) 話すこと「やり取り」(p. 22, 23) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする 資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
文を作れること、 関連性のある口語 表現を駆使できる ことを示すことができる	Speaking 【設問数】1問 【課題】30秒の準備時間の 後、試験官から提供されたト ピックについて話し、フォロ ーアップの質問に答える	話 す こ と	高コI 1目標(4) 話すこと「発表」(p. 26, 27) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 中 第2章第2節1目標(3) 話すこと「発表」(p. 24, 25) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

(様式4)

測定ツール名：IESOL - 3 skills Access A2、IESOL - Speaking Access A2

対象教科：英語

測定内容の区分：Listening, Reading, Writing and Speaking

※高校学習指導要領（平成30年度版）中学校学習指導要領（平成29年度版）参考

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
短い文章の中の簡単な 重要情報を認識できる	Listening 【設問数】7問 【課題】2回聞いて、7つの短 い文を絵、数字、綴り、地 図、計画表などに合わせる 各項目には2つの情報が含ま れている 【形式】各発話に対して3択 の多肢選択問題 *サンプル問題あり(様式5の p.12-13)	聞くこと	高コミI(1)聞くこと (p.23) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 中第2章第2節(1)(p.18) ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を 聞き取ることができるようにする。
英語で話される典型的 な短文中の機能を理解 する	Listening 【設問数】7問 【課題】2回聞いて、7つの短 い発話に対する最適な返答 を選ぶ。 【形式】各発話に対して3択 の多肢選択問題	聞くこと	高コミI(1)聞くこと (p.23) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 中 第2章第2節(1)(p.18) イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉 えることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
会話の特定の側面がわ かる	Listening 【設問数】6問 【課題】2人の話者による6つ の短い会話を2回聞き、ト ピック、目的、文脈、話 者、要旨、話者間の関係、 機能、態度、感情、意見な どを理解する 【形式】各会話に対して3択 の多肢選択問題	聞 く こ と	高コミ I(1) 聞くこと (p. 23) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 中 第2章第2節(1) (p. 18) イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉 えることができるようにする。
モノローグから重要な 情報を聞き取ることが できる	Listening 【設問数】6問 【課題】メッセージやアナウ ンスなどを2回聞いて、特 定の情報を理解することが できる 【書式】6つの見出しがあり、 それぞれの見出しに適切な 情報をノートまたはメッセ ージパッドに入れる	聞 く こ と	高コミ I(1) 聞くこと (p. 23) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。 中 第2章第2節(1) (p. 18) ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を 聞き取ることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
短文の一貫性とまとまりを理解することができる	Reading 【設問数】6問 【課題】リスト、ラベル、住所、注意書きなどの6つの短文を、それぞれギャップを設けて出題される 【形式】各文章に対して、3択の多肢選択問題を1問出題し、各文章を正しく完成させる *サンプル問題あり(様式5のp.15)	読むこと	高コミ I2 内容(1) (p.29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。 中 第2章第2節2内容(1)(p.29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。
簡潔な文章の構造を理解できる	Reading 【設問数】7問 【課題】6つの削除箇所と1つの錯乱肢箇所があるギャップ付きテキスト 【書式】空白のテキストに続いて、テキストを正しく完成させるための7つの選択肢がある	読むこと	高コミ I2 内容(1) (p.29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。 中 第2章第2節2内容(1)(p.29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。
文章の目的を理解し、特定の情報を探すことができる	Reading 【設問数】7問 【課題】テーマは同じだが、目的が異なる4つの短いテキスト(通知書、手紙、アポイントメントカードなど)を用いる 【形式】文章から情報を読み取るための7文の多肢照合問題	読むこと	高コミ 1目標(2) (p.24) ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。 中 第2章第2節1目標(1)読むこと(p.20) ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
詳細な読み物で特定 の情報を理解できる	Reading 【設問数】7問 【課題】連続したテキスト： 物語、記述文、説明文、解説 文 【形式】テキストに関する3 択の多肢選択問題7問	読む こと	高コミ I 1目標(2) (p.24) ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにお いて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の 意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにお いて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要 点を目的に応じて捉えることができるようにする。 中 第2章第2節1目標(1)読むこと(p.20) イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の 概要を捉えることができるようにする。 ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の 要点を捉えることができるようにする。
与えられたテキストに インフォーマルに反応 する	Writing 【設問数】3問(12点) 【課題】与えられた手紙、メ ッセージ、電子メール、グ リーティングカード、ポス トカードなどに対して、返 事を書くことができるよう にする。文章には3つの質 問、提案、または要望など が含まれる 【書式】30～50語の記述式	書く こと	高コ I 1目標(5) (p.27) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などに おいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情 報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えること ができるようにする。 中 第2章第2節1目標(5)書くこと(p.27) イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理 し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができ るようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
意図した読者に向け て、中立的な文章やフ ォーマルな文章を書く ことができる	Writing 【設問数】3問(12点) 【課題】手紙、メッセージ、 ノートなど、特定の読者に 向けて、指定された方法で 文章を書くことができるよ うにする。含まれる内容は3 項目 【形式】30～50語の記述式 *サンプル問題あり(様式5の p. 16-18)	書く こと	高コI 1目標(5) (p. 27) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備など において、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情 報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えること ができるようにする。 中 第2章第2節1目標(5)書くこと(p. 27) イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理 し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができ るようにする。
【時間】9分 個人的なことについて 話することができる	Speaking 【設問数】5問 【課題】名前の読み方とスペ ル、出身国を答える 【形式】5つまでの質問に答 える	話す こと	高コI 1目標(3)話すこと「やり取り」(p. 25) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情 報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることがで きるようにする。 中 第2章第2節1目標(3)話すこと「やり取り」(p. 22) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え 合うことができるようにする。
現実の状況において、 さまざまな言語機能 を用いて、必要に応じて 要求したり応答したり してコミュニケーション を図ることができる	Speaking 【設問数】2問 【課題】2つ以上のシチュエー ションが試験官によって提示 され、受験者はそれに対して 対話を開始する	話す こと	高コI 1目標(3)話すこと「やり取り」(p. 26) イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを 基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論 理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。 中 第2章第2節1目標(3)話すこと「やり取り」(p. 22) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え 合うことができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
簡単なタスクを完了す るために情報を交換す ること	Speaking 【設問数】1問 【課題】アクセスレベルでは 近な状況の写真の類似点と 相違点を識別するために情 報を交換する	話 す こ と	高コI 1目標(3) 話すこと「やり取り」(p. 25) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情 報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることがで きるようにする。 中 第2章第2節1目標(3) 話すこと「やり取り」(p. 22, 23) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え 合うことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理 し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたり することができるようにする。
文を作れること、関連 性のある口語表現を駆 使できることを示すこ とができる	Speaking 【設問数】1問 【課題】30秒の準備時間の 後、試験官から提供された トピックについて話し、フ ォローアップの質問に答え る *サンプル問題あり(様式5の p. 19-20)	話 す こ と	高コI 1目標(4) 話すこと「発表」(p. 26, 27) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備など において、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情 報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができ るようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備など において、多くの支援を活用すれば、聞いたことや読んだことを 基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論 理性に注意して話して伝えることができるようにする。 中 第2章第2節1目標(3) 話すこと「発表」(p. 24, 25) ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話 すことができるようにする。 イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理 し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができ るようにする。

(様式4)

測定ツール名：IESOL - 3 skills Achiever B1、IESOL - Speaking Achiever B1

対象教科：英語

測定内容の区分：Listening, Reading, Writing and Speaking

※高校学習指導要領（平成30年度版）中学校学習指導要領（平成29年度版）参考

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
様々な発話の文脈、意 味、機能を理解するこ とができる	Listening 【設問数】7問 【課題】7つの短文（文、説 明、記述、指示、質問） を2回聞く 【形式】各発話に対して3 択の多肢選択問題で適切 な回答を選ぶ *サンプル問題あり(様式5 のp.22-23)	聞くこと	高コミ II 1目標 (1)聞くこと (p.59) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるように する。 高コミ II (3)①イ聞くこと (p.66) (ア)日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整さ れたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やス ピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を 把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり 書いたりして伝え合う活動。
会話の特定の部分を特 定する	Listening 【設問数】6問 【課題】2人の話者による3 つの短い会話を2回聞 き、トピック、目的、文 脈、話者、要旨、話者間 の関係、役割、機能、態 度、感情、意見などを特 定する 【形式】各会話に対して3 択の多肢選択問題を2問 出題	聞くこと	高コミ II 1目標 (1)聞くこと (p.59) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるように する。 高コミ II (3)①イ聞くこと (p.66) (ア)日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整さ れたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やス ピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を 把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり 書いたりして伝え合う活動。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
モノログから重要な 情報を抽出し、タスク を完了させることがで きる	Listening 【設問数】7問 【課題】ラジオ放送、トー ク、ナレーション、プレ ゼンテーションなどを2 回聞いて、具体的な情報 を確認する。 【書式】7つの見出しがあ り、それぞれの見出しに 正しい情報をノートやメ ッセージパッドに書き入 れる	聞 く こ と	高コミ II 1目標 (1)聞くこと (p.60) イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるよ うにする。 高コミ II (3)①イ聞くこと (p.67) (イ)社会的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整さ れたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、説明や討 論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する 活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたり して伝え合う活動。
2人の発話者のディス カッションを理解する	Listening 【設問数】6問 【課題】ディスカッション を2回聞き、要点、例、 事実、意見、対比、目 的、キーアイデア、態 度、原因と結果などを理 解する 【形式】3択の多肢選択問題 6問	聞 く こ と	高コミ II 1目標 (1)聞くこと (p.59,60) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるよ うにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を 聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるよ うにする。 高コミ II (3)①イ聞くこと (p.66,67) (ア)日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整さ れたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やス ピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を 把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり 書いたりして伝え合う活動。 (イ)社会的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整さ れたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、説明や討 論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する 活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたり して伝え合う活動。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
様々な実際のテキスト の一貫性やまとまりを 理解することができる	Reading 【設問数】5問 【課題】5つの短文で、それ ぞれ1つのギャップがあ り、レイアウト、語彙、 まとまりの工夫、一貫性 をみる 【形式】各テキストに3択 の多肢選択問題を5つ用 意し、各問題を正解する *サンプル問題あり(様式5 のp. 25-26)	読む こと	高コミ I 2 内容(1) (p. 29) 高コミ II 2 内容(1) (p. 79) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを 効果的に関連付け、実際のコミュニケーションに おいて活用でき る技能を身に付けることができるよう指導する。
文章の中で意味がどの ように構築されている かを理解する	Reading 【設問数】6問 【課題】6つのセンテンスが 削除された1つの文章にお いて、トピックセンテ ンス、要約センテンス、アイ デアの展開、ポイントの強 調、意見、対比、順序、前 後の参照、新しいアイデア への移行について理解する 【形式】6つのギャップを埋 めるために、7つのセンテ ンスの中から選択する	読む こと	高コミ I 2 内容(1) (p. 29) 高コミ II 2 内容(1) (p. 79) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを 効果的に関連付け、実際のコミュニケーションに おいて活用でき る技能を身に付けることができるよう指導する。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
文章の目的を理解し、 特定の情報を探すこと ができる	Reading 【設問数】7問 【課題】課題]メール、記 事、広告など、テーマが リンクしているが目的が 異なる4つの短いテキス ト 【形式】文章から情報を抽 出する7つの多肢照合問 題	読む こと	高コミ 1I 1目標(2) (p.60,61) ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにお いて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展 開や書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにお いて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要 点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
詳細な読解による特定 の情報の理解	Reading 【設問数】8問 【課題】連続したテキスト (物語、記述文、説明 文、伝記、教科書)を読 む 【形式】「wh」で答える短 文形式	読む こと	高コミ 1I 1目標(2) (p.60,61) ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにお いて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展 開や書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにお いて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要 点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
与えられたテキストに 適切に理解し、意図さ れた読者を対象とした 正式な回答を作成する ことができる。	Writing 【設問数】1問(12点) 【課題】手紙、ポスター、 日記、時間割、リーフレ ットなど、特定の読者と 明確に定義された内容に 対する回答を書く 【形式】70～100語の記述式	書く こと	高コII 1目標(5) (p.64) イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などに おいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基 に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に 注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる ようにする。 高コII 2(3)①カ(ア) (p.72) (イ)社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文 章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする 状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、 気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて 伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、 意見や感想を伝え合ったりする活動。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
友人に宛てたインフォ ーマルな手紙の作成	Writing 【設問数】1問(12点) 【課題】個人的な関心事に ついて、2つの機能が含ま れた手紙を書く(例:友 人を招待し、何をするか を書く) 【形式】100～120語の記述 式 *サンプル問題あり(様式5 のp.27-29)	書くこと	高コII 1目標(5) (p.63) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備など において、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報 や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で 詳しく書いて伝えることができるようにする。 高コII 2(3)①カ(ア) (p.72) (ア)関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要 に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための 一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを 理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。 また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝 え合ったりする活動。
【時間】12分 個人的なことについて 話することができる。 また、意見や考えを話 すことができる	Speaking 【設問数】5問 【課題】名前の読み方とス ペル、出身国を答える 【形式】5つまでの質問に 答える	話すこと	高コII 1目標(4) 話すこと「やり取り」 (p.61) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報 や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けること ができるようにする。
現実の状況において、 さまざまな言語機能 を用いて、必要に応じて 要求したり応答したり してコミュニケーション を図ることができる	Speaking 【設問数】5問 【形式】2つ以上の場面が試 験官によって提示され、 受験者はそれに反応し、 対話を開始する	話すこと	高コII 1目標(4) 話すこと「やり取り」 (p.62) イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基 に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に 注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
協調して合意・決定す ることができる	Speaking 【設問数】1問 【形式】視覚的なプロンプ トを使用して、何かを計 画したり、手配したり、 決定したりするための短 いディスカッションを行 う	話す こと	高コII 1目標(4) 話すこと「やり取り」(p. 61, 62) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報 や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けること ができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基 に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に 注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。
語り、説明し、考えを 伝え、意見を述べるこ とができる	Speaking 【設問数】1問 【形式】30秒の準備時間の 後、試験官から提供され たトピックについて話 し、フォローアップの質 問に答える *サンプル問題あり(様式5 のp. 30-31)	話す こと	高コII 1目標(4) 話すこと「発表」(p. 62, 63) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備など において、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報 や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることが できるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備など において、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基 に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に 注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

(様式4)

測定ツール名：IESOL - 3 skills Communicator B2、IESOL - Speaking Communicator B2

対象教科：英語

測定内容の区分：聞くこと、読むこと、書くこと and 話すこと

※高校学習指導要領（平成30年度版）中学校学習指導要領（平成29年度版）参考

測定しようとする資質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又は事項	科目名及び内容
具体的および抽象的なトピックに関する短い会話で、文脈、意味、機能を理解することができる。	Listening 【設問数】7問 【課題】2人の話者の間で交わされた未完成の会話7つを2回聞く（1つはフォーマルな会話）。 【形式】適切に会話を完了または継続させる文を3択の多肢選択問題から選ぶ *サンプル問題あり(様式5のp.33)	聞くこと	高コミ II 1目標 (1)聞くこと (p.59) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。 高コミ II (3)①イ聞くこと (p.66) (ア) 日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やスピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。
会話の特定の局面を特定する	Listening 【設問数】6問 【課題】2人の話者による3つの会話を2回聞き、トピック、目的、文脈、話者、要旨、話者間の関係、役割、機能、態度、感情、意見などを特定する。 【形式】各会話に対して3択の多肢選択問題を2問出題	聞くこと	高コミ II 1目標 (1)聞くこと (p.59) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。 高コミ II (3)①イ聞くこと (p.66) (ア) 日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やスピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内 容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
独話から重要な情報を抽出し、タスクを完了させることができる	Listening 【設問数】7問 【課題】ラジオ放送、ナレーション、プレゼンテーションなどを2回聞いて、具体的な情報を理解する 【形式】7つの見出しがあり、それぞれの見出しにあった正しい情報をメモ帳またはメッセージパッドに入れる	聞くこと	高コミ II 1目標 (1)聞くこと (p. 60) イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 高コミ II (3)①イ聞くこと (p. 67) (イ)社会的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、説明や討論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。
2人の講演者のディスカッションを理解する	Listening 【設問数】6問 【課題】ディスカッションを2回聞き、要点、例、事実、意見、対比、目的、キーアイデア、態度、原因と結果を特定する。 【形式】3択の多肢選択問題	聞くこと	高コミ II 1目標 (1)聞くこと (p. 59, 60) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。 高コミ II (3)①イ聞くこと (p. 66, 67) (ア)日常的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やスピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。 (イ)社会的な話題について、必要に応じて、話される速さが調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、説明や討論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内 容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
情報、アイデア、意 見を詳細に理解する ことができる	Reading 【設問数】6問 【課題】ニュース記事、論 文、レビュー、企画書など の長文 【形式】3択の多肢選択問題 *サンプル問題あり(様式5の p. 35-36)	読む こと	高コミ I 2 内容(1) (p. 29) 高コミ II 2 内容(1) (p. 79) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを 効果的に関連付け、実際のコミュニケーションに おいて活用でき る技能を身に付けることができるよう指導する。
文章の中で意味がど のように構築され ているかを理解で きる	Reading 【設問数】6問 【課題】6つの文を削除した テキストの中でトピックセ ンテンス、要約センテ ンス、アイデアの展開、ポイ ントの強調、意見、対比、 順序、前後の参照、新しい アイデアへの移行などを探 す 【形式】6つのギャップを埋 めるために、7つの文章か ら選択する	読む こと	高コミ I 2 内容(1) (p. 29) 高コミ II 2 内容(1) (p. 79) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを 効果的に関連付け、実際のコミュニケーションに おいて活用でき る技能を身に付けることができるよう指導する。
文章の目的を理解 し、具体的な情報 を探し出すことが でき、書き手の考 えや態度を認識で きる。	Reading 【設問数】7問 【課題】メール、記事、広 告、パンフレットなど、テ ーマがリンクしていて、か つ目的が異なる4つのテキ スト 【形式】テキストから情報を 特定する7つのマルチプル マッチング問題	読む こと	高コミ II 1 目標(2) (p. 60, 61) ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などに おいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展 開や書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などに おいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要 点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内 容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
詳細な読解による特 定の情報が理解で きる	Reading 【設問数】7問 【課題】一貫性のあるテキ スト：物語、記述文、説明 文、解説文、伝記、教科書 【形式】「wh」を使った短文 自由回答	読む こと	高コミ 1I 1目標(2) (p. 60, 61) ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにお いて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展 開や書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにお いて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要 点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。
与えられた問題文を 適切に読み取り、 一般の読者を対象 とした正式な回答 を作成することが できる。	Writing 【設問数】1問(12点) 【課題】扱うべき内容を不 足なくいれ、対象となる読 者を明確にした文章を用い て、正式に回答する 【形式】100～150語の記述式	書く こと	高コII 1目標(5) (p. 64) イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などに おいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基 に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に 注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができ るようにする。 高コII 2(3)①カ(ア) (p. 72) (イ)社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文 章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする 状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、 気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて 伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、 意見や感想を伝え合ったりする活動。
個人的な手紙、お話 的な文/ストーリ ー、または記述文 を作成できる	Writing 【設問数】1問(12点) 【課題】専門的な知識を必要 としない一般的なテーマ で、特定の読者に向けたイン フォーマルな文章を、対 処すべき内容が明確に述べ られている文章を書く 【形式】150～200語の記述式 *サンプル問題あり(様式5の p. 38-40)	書く こと	高コII 1目標(5) (p. 63) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などに おいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報 や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で 詳しく書いて伝えることができるようにする。 高コII 2(3)①カ(ア) (p. 72) (ア)関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要 に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための 一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを 理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。 また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝 え合ったりする活動。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内 容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域又 は事項	科目名及び内容
【時間】 13 分 個人的なことができる。 また、意見や考えを 話することができる	Speaking 【設問数】 5 問 【課題】 名前の読み方とスペル、出身国を答える 【形式】 5 つまでの質問に答える	話すこと	高コ II 1 目標(4) 話すこと「やり取り」 (p. 61) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。
現実の状況において、さまざまな言語機能を用い、必要に応じて要求したり応答したりしてコミュニケーションを図ることができる	Speaking 【設問数】 5 問 【形式】 2 つ以上の場面が試験官によって提示され、受験者はそれに反応し、対話を開始する	話すこと	高コ II 1 目標(4) 話すこと「やり取り」 (p. 62) イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。
協調して合意・決定することができる	Speaking 【設問数】 1 問 【形式】 書かれたプロンプトを使用して、何かを計画したり、手配したり、決定したりするための短いディスカッションを行う	話すこと	高コ II 1 目標(4) 話すこと「やり取り」 (p. 61, 62) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝え合うことができるようにする。
語り、説明し、考えを伝え、意見を述べるができる	Speaking 【設問数】 1 問 【形式】 30 秒の準備時間の後、試験官から提供されたトピックについて話し、フォローアップの質問に答える *サンプル問題あり(様式5の p. 41-42)	話すこと	高コ II 1 目標(4) 話すこと「発表」 (p. 62, 63) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。

(様式4)

測定ツール名：IESOL - 3 skills Expert C1、IESOL - Speaking Expert C1

対象教科：英語

測定内容の区分：Listening, Reading, Writing and Speaking

※高校学習指導要領（平成30年度版）中学校学習指導要領（平成29年度版）参考

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
具体的および抽象的なトピックに関する短い会話で、文脈、意味、機能を理解することができる。	Listening 【設問数】6問 【課題】2人の話者の未完成の会話を6回聞く。慣用表現、口語表現、レジスターシフト、話者の態度を示すストレスやイントネーションの使い方などが含まれる 【形式】各会話に対して、会話が適切に完了または継続する選択肢を選ぶ *サンプル問題あり(様式5のp.44-45)	聞くこと	高コミ I 2 内容 (3)② (p.54) 高コミ III 2② 聞くこと (p.86) 言語活動を行うに当たり、…五つの領域別の目標を達成するためにふさわしいものを取り上げ、有機的に組み合わせて活用するようにする。
会話の特定の機能を特定できる	Listening 【設問数】6問 【課題】2人の話者による3つの会話を2回聞き、トピック、目的、文脈、話者、要旨、話者間の関係、役割、機能、態度、感情、意見などを特定する 【形式】各会話に対して3択の多肢選択問題を2問出題	聞くこと	高コミ III 1 内容 (1) (p.75,76) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
モノログから重要な 情報を抽出し、タスク を完了させることがで きる	Listening 【設問数】7問 【課題】講義、ラジオ放送、 ナレーション、プレゼンテ ーションなどを2回聞い て、具体的な情報を特定す ることができる。リスニン グテキストには、密度の高 い事実に基づいた情報が含 まれてい 【書式】ノート、メッセージ パッド、またはフォームに7 つの見出しがあり、そこに 適切な情報を書き込む	聞 く こ と	高コミ III 1 内容 (1) (p. 75, 76) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な 情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる ようにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展 開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的 に応じて捉えることができるようにする。
2 人の講演者のディス カッションについて理 解できる	Listening 【設問数】7問 【課題】ディスカッションを2 回聞き、要点、例、事実、 意見、対比、目的、キーア イデア、態度、原因と結果 を特定する。 【形式】3 択の多肢選択問題 7 問	聞 く こ と	高コミ III 1 内容 (1) (p. 75, 76) ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な 情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる ようにする。 イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や 文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展 開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的 に応じて捉えることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
複雑な構造を持つテキ ストや言葉の使い方、 記事が理解できる	Reading 【設問数】5問 【課題】慣用語句、物語や学 術的なアイデア、議論、意 見を含む1つのテキストを 読む 【形式】文章についての5つ の文の真偽判定 *サンプル問題あり(様式5の p. 47-48)	読む こと	高コミ I 2 内容(1) (p. 29) 実際に英語を用いた言語活動を通して、…言語材料と言語活動とを 効果的に関連付け、実際のコミュニケーションに おいて活用でき る技能を身に付けることができるよう指導する。 高コミ III 2 内容(3)① ウ読むこと (p. 82, 83) (ア)日常的な話題について、新聞記事や物語などから必要な情報を 読み取り、文章の 展開や書き手の意図を把握する活動。また、読 み取った内容について、質疑応答を したり、意見や感想を伝え合 ったりする活動。 (イ)社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の 展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取 り、概要や要点、詳細をまとめる活動。 また、まとめた内容を基 に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動。
談話の中で意味がどの ように構築されている かを理解する	Reading 【設問数】6問 【課題】トピックセンテ ンス、要約センテンス、アイ デアの展開、ポイントの強 調、意見、対比、順序、前 後の参照、新しいアイデア への移行などの6つのセン テンスが削除された1つの テキストを読む 【形式】6つのギャップを埋める ために、8つのセンテンスか ら選択する。	読む こと	高コミ III 1 目標(2)ア (p76) (ア) 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などに おいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、 文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などに おいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら 必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えるこ とができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
さまざまな実際のテキ ストの目的を理解し、 特定の情報を識別する ことができる	Reading 【設問数】7問 【課題】トピックセンテ ンス、要約センテンス、アイ デアの展開、ポイントの強 調、意見、対比、順序、前 後の参照、新しいアイデア への移行などの6つのセン テンスが削除された1つの テキストを読む 【形式】6つのギャップを埋め るために8つの文章から選 択する	読 む こ と	高コミ III 2 内容(3)① ウ読むこと (p. 82, 83) (ア) 日常的な話題について、新聞記事や物語などから必要な情報を 読み取り、文章の 展開や書き手の意図を把握する活動。また、読 み取った内容について、質疑応答を したり、意見や感想を伝え合 ったりする活動。 (イ) 社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の 展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取り、 概要や要点、詳細をまとめる活動。 また、まとめた内容を基に解 決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動。
テキストの談話、目 的、要点を理解し、特 定の情報を探ることが できる	Reading 【設問数】8問 【課題】連続したテキスト： 物語、記述文、説明文、解 説文、伝記、教科書 【形式】「wh」問題に8つの 短文自由形式で答える	読 む こ と	高コミ III 2 内容(3)① ウ読むこと (p. 82, 83) (ア) 日常的な話題について、新聞記事や物語などから必要な情報を 読み取り、文章の 展開や書き手の意図を把握する活動。また、読 み取った内容について、質疑応答を したり、意見や感想を伝え合 ったりする活動。 (イ) 社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の 展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取り、 概要や要点、詳細をまとめる活動。 また、まとめた内容を基に解 決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
与えられた指示に適切 に対応し、意図された 読者のために正式な回 答を作成する	Writing 【設問数】1問(12点) 【課題】自分の立場、意見、 正当性、論拠を表現するた めに、文字、グラフィッ ク、または視覚的なインプ ットを使い、対象となる読 者を指定して、手紙、レポ ート、議論、または記事を書 く 【形式】150～200語の記述式	書くこと	高コ III 1目標(5) 書くこと (p.79) イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。 高コ III 2内容(3)①カ書くこと (p.85) イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに 複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑 応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
個人的な手紙、物語的 な作文/ストーリー、 または記述文を書く	Writing 【設問数】1問(12点) 【課題】特定の読者に向け て、インフォーマルな文章 を書く指示。説得、論証、 仮説、感情や意見の表現、 正当化、評価などの機能を用 いて書く 【形式】250～300語の記述式 *サンプル問題あり(様式5の p.49-51)	書くこと	高コ III 1目標(5) 書くこと (p.79) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。 高コ III 2内容(3)①カ書くこと (p.85) (ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
【時間】15分 様々なトピックについて 意見やアイデアを伝え、 現代の問題について個人 的な意見を述べるこ とができる。	Speaking 【設問数】5問 【課題】名前の読み方とス ペル、出身国を答える 【形式】5つまでの質問に答 える	話すこと	高コ III 1目標(3) 話すこと「やり取り」 (p.77) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。

(様式4)

測定しようとする資 質・能力の具体的内容	設問数、出題形式等	(参考) 学習指導要領の関連項目	
		領域 又は 事項	科目名及び内容
実生活の中で、さまざま な言語機能を用い て、必要に応じて指示 を出したり応答したり してコミュニケーション を図ることができる。また、幅広い言語 機能とレジスターを使用 する能力を示す。	Speaking 【設問数】1問 【課題】2つ以上のシチュエー ションが試験官によって提 示され、受験者はそれに対 し、対話を開始するよう に求められる	話 す こ と	高コ III 1目標(3)話すこと「やり取り」(p.77) イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたこ とを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に 用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝 え合うことができるようにする。
議論に参加し、意見を 述べたり引き出したり する際に、正当性を主 張し、異議を唱え、説 得することができる。	Speaking 【設問数】1問 【課題】書かれた文章をヒン トに、何かを計画したり、 手配したり、決めたりする ための短いディスカッシ ョンを行う	話 す こ と	高コミ III 2(3)話すこと「やりとり」(p.77) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的 や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなど を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることが できるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開など において、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたこ とを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に 用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝 え合うことができるようにする。
抽象的で複雑な幅広い テーマの中から1つの トピックについて深く 話することができる	Speaking 【設問数】1問 【課題】30秒の準備時間の 後、試験官から提供された トピックについて話し、フ ォローアップの質問に答え る *サンプル問題あり(様式5の p.52-53)	話 す こ と	高コミ III 2(3)話すこと「発表」(p.78) ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備など において、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的 や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなど を論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。 イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備など において、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたこ とを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に 用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えるこ とができるようにする。